明治二十一年九月十五日發兌

以良都女

第十五號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十五號目次

挿畫。天下奇觀ナイアガラ瀑布新圖石版

家政。小供と物語本。禽獸を虐遇する習慣を小供に付る事帳簿を嚴に買物を現金に。古き天鵞絨を新しくする法。

小說。空行く月(第五回)。

講義。用器畫稽古の新法(圖入)。

文藝美術。正本ハムレット。花のかをり。題しらず。きのふれゆふべは。野生の花(薔薇)。

雜纂。人工の片輪(西洋婦人の腹)(寫眞入)茶碗を打つて年齡を悟る奇術及其理。

近事批評。渡邊鼎氏洋服採用の可否。

近刊批評。自由鏡初篇。今世ひゞかゝみ。婦人言論の自由。夏木立。

流行。少女の帷子‖單もの‖阿波ちゞみ‖茶臺の‖復古‖若狹塗‖梨子地の筆軸‖灯燈形のホヤ‖帛紗。

化粧。肉色を麗しい薄紅色にする法。顏の肌理ふある汚物を去る法。そばかすを去る法。

通信問答。

餘興。

月報。

新作謎……(懸賞)

一、紫　令嬢へ―寶石貴金屬の寓意○二、秋の野令嬢へ―二件○三、　數鳥さまへ―最上の日本語典○四、一條令嬢へ―指輪のはめ方―花鳥の音色―うはくしきといつをしき○五、華圃令嬢へ―コルケ―ト商會の香水―外四件○六、あき子さまへ―雅語綴字例の詳○七、つる子さまへ―ヲナモミの葉が色を白ゑするか○八、岡山令闔へ―レースを洗ふ法○九、雪枝さまへ―姿見鏡を滑くする法○十、岡田とら子さまへ―鐵のサビを取る法○十一、翠烟令嬢へ―病室の臭氣を去る諸法○十二、花子令嬢へ―ペンキの臭氣を去る法○十三、甘露女史へ―手輕卽席汁粉製造法

社告

今般いらつめ發行所成美社神田區駿河臺南甲賀町八番地ニ移轉仕候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十五號

家政

小供と物語本

小兒の胸中は好奇心を以て滿ちてをりますから一物を見れば「これはなあに？」一言を話せば「それからどうしたの？」といふ問が直續いて起ります、此問が千金です、智慧の萌芽です。此萌芽を摘きらないやうに開き導くのが教育の主意で幼稚園も此萌芽の培養所です。「これもなあに？」の問は目に見、耳に聞き手に觸れる物に就きて起るものですが「それからどうしたの？」の問は目に見えぬ思想上の事です。問の中に已に思想の連絡といふとが含でをりますぞ。母や乳母が添臥に乳を哺ませながら昔々の猿蟹合戰、花咲爺、かちかち山の噺をいたしますと小兒は乳をイヂりながら餘念なく母の顏を見詰めて聽てをります。話が少し途切れると直「それからどうしたの？」といふ問が出ます。そして一齣の話を畢りますと纒つた思想が小供の心に殘ります。これを何度も何度も繰返すのですから終には小供もよく覺えて母や乳母に聽かせるやうになりますかやうになりますと子供を喜ばせながら思想の發達を策動し話振をも教へます。これで一廉の教育になります。元々物語はかやうの結果を得んが爲作つたものでもありますまい又話して聽かせる母や乳母も左程まで考へてをるのではありません。が其効用も中々夥しいものです。西洋でも矢張子供のお伽話があります。イーソップの作話、グリムスの話、エッチウォルスの話などは皆西洋の花咲爺、かちかち山のはなしです。

早十一二歳にもなりますと昔々の作り話も餘り面白くありませんから晩餐の後家内の團欒に父親が面白き祖先の噺偉人勇將の噺などを聽かせ母親が優美なる文學上の噺又は修身の噺をして聽かせますと德性を養ふに無量の効能があります。さりながらどの家も皆が皆るやうな譯には參り兼ぬるものですから親達が世話をやかないで小供に自ら樂を取らせる方法を述べましやう。此年頃になりますれば早小學校の尋常科を中程まで卒へて傍訓の物の本位は可なり讀めますから文章の面白く事實の確なる物語本を買つて與へるのです。西洋では老人が子供を膝下に集めて譚をしておる體に綴つた書物が澤山ムいます夫のチヤーレスヂッケンスが例の才筆を以て小供

の爲に作た英國の歴史の如きサミユーエル、グードリッチがピーターパーレーの名で書いた歴史類や博物書類は固より文章は良し事實は確なり、だからどの位面白いでしやう小供が樹の陰や芝生の上に横りて之を繙き佳境に入りては獨り笑つたり顔を蹙めたり餘念なき間に幾多の智識を得るでしやう。これは西洋の噺いくらよくても仕方がない。さらば當方では適當のものがあるかといふにまづかやうな目的で書いた物さありませんが古人の書いた物の内源平盛衰記平家物語太平記の類は文章も正しく事實も確で面白く小供に讀ませて十分利益があらうと思ひます。回顧しますればまだ總角のときかやうな物語本を買つて貰ひ讀だ時の面白さ寢食を忘れるともムいます。其時は唯芝居を觀たり寄席に行くやうな積りで讀んでをりましたら跡から思ひ合しますれば利益は中々廣大でした。第一忠臣孝子節婦義士勇將偉人の言行心術を窺ひ得るは申迄もなく見ぬ世の風俗人情も分り何となく理解力を増して人の話を聽いてもよく解るやうであつたかと自分ながらも思ひました。唯是のみでなく傍訓も今出來の書物のやうに誤がムいませんから自然と正しき假名遣をも覺え又日用の文字をも覺えましたる。是は嘘ではない記者と仝樣な教育を受けられる方には經驗がムいましやう。

今日は學校の教育行屆き脩身歴史はさらなり文字の教何不足はありませんが遊戯快樂の中に幾分か其素脩が出來るものあらば大に學校の教育を助けるでしやう。志ろしあらば玆に注意をすべきは近所出版する傍訓新聞紙又は小説類は多くは腐敗したる人情の寫眞ですから子供に讀ませては利益よりは害が多うムいましやうから良書の出來るまで前々申した書物で試して御覽なさい。

禽獸を虐く取扱はぬ風習を子供に付ける事

仁禽獸に及ぶとは往古の聖人の言葉で、人間より劣つて居る物をばすべて慈眼で見るといふのは仝意味の釋迦の教です。草木にしろ、禽獸にしろ、すべて人間のために出來て居るものだと言へば成程人間を萬物の長だと爲るとは出來ません。併しながらそれでは其等下等の物を虐く取扱ふことを禁ぜることは出來ますまい。それで禁ずれば前後四道路の妄言です。この人間を以て地球上第一の靈智なものと考へたのは學術の開けなかつた其むかしの説で、今の進化の理を知ればつまり人間とて然程尊むべきもので無く、只人間に今日の地位が有

るのは發達が有ッた結果だけです。これ、一ッでも下等の物を虐待するのは大變な非道だといふ事がわかります。

禽や獸の有樣を篤と見れば實に憫むべきものだと云ふ事が見えます。わづかに啼叫ぶより外は意中を外に現すことも出來ず、撻たれても耳をそばめて爭はず、叱られても尾を振ッて媚を求めるばかり、殊さら人に畜はれて居る物などはかならずしもわが望む時に食を得るといふ譯にも行かず、かならずしもわが望む時に眠るといふ譯にも行かず、それで怨をも含まず、一意主人に從ッてはかなくも日を過ぐして居ます。その哀さとても述盡くされぬほどです。諺にも弱いものいぢめは第一の卑怯と言ひます。男子が婦人と爭ッて鋭利に過ぎた物を用ゐたのをば法律でもいやしめます。人間に向ッては爭ふといふことの出來ぬ、ごくはかない動物を非常に虐く取扱ふのは、如何です、之で卑怯の極度ではありませんか。それが營業のためならばまだ幾分か恕しても宜うムいますが、しかしそれとても顏を背けて正しくは見ぬ人もあります。まして營業のためでも無くて戯に之を虐待してそれで自身の愉快とするのは人面獸心の人間でも、桀紂や秀次にもをさをさ劣ッては居ません。處が子供の活潑なとは終に小供を驅ッて犬や猫を虐待して無上の愉快と考へさせます。是は子供の心には虐待するのだとも思ひません。わるい心は無くて、面白さに思はず白の首を縛り、或は黒の毛を拔のです。子供は罪は無いのです。たゞそれを見て氣にも留めず、看過して居る母親その人はつまりみづから手を下して此卑怯を行ふのと全じことです。之は些細な事のやうです。けれどその儘に放任て置けば遂にそれが習慣となり、そこでその習慣が心の多分を占めて仕舞ひ、果はその子供が成長して些しも慈悲の心の無い、「しやいろッく」のやうな無殘の人と成果てゝ仕舞ひます。兇惡な子を有ッて誰れが愉快と思ひましやう。けれどその種を(動盡くそべき人が)蒔いたことゆゑ仕方がありません。

子供に仁愛の心を持たせるには此上も無い美いことでそれを持たせるには第一に仁を下等の物に及ぼす風習を付けるに越したことは有りません。既に母となッて居る方でも、今姉となッて居る方でも、やがて母となる方でもこの事にはよくよく御氣を御注けなさい。

〜〜〜〇〇〜〜〜

帳簿を嚴に買物を現金に

「オヤマー貴人、今月は如何して今様に御金が入りましたらう、賄金がモーありませんよ……ナンで今様に入ッたらう……」とも折々聞きかしる細君の御愚痴でムいますが之は嘗て御注意申した事もありました通小遣帳を不取締にイヱ大概は御附なさらぬから旦那から預ッた賄金が少くなるとフット氣が付てモシヤお鍋でも（ナンノそんなに人の黒くもない腹を無暗にさぐり給ふものか）と思ふ程です。 さて色々考へて見ますと追々遣ひ道がわかります。「ハテあれを買ッた跡であれ、其次にあれ、それで御金が二圓五十錢、そこから何を買ッたろ、アート……チ、サウ〳〵牛肉を三斤其序にお鍋に廻り道をさせて風月堂で旦那の御好のあれを五十錢ナンカンと大層の苦勞を（ソレコソ御苦勞様）してエンヤラヤット使ひ道がわかれば幸福ナカ〳〵わかりません。 わかッた處で費たお金も戻りません、月末には米屋、酒屋、肴屋、料理屋の拂が丸で不足して芝居を見そこなふ方もありましやう。

帳面を附けるのは毎晩附けますれば亂れるともなく面倒なともないのです。 是を毎日の御役目にすればナンのともありません、二三分間の御仕事でムいます。 處が毎晩つけませんと至極面倒な隙つぶしな仕事になります。 兎角勝手向の買物ハコマ〳〵してゐますので二日もつけぬと忘れます。 忘れると「思ひ出してから」とて日延になり隨て忘れる數も多なり其中に四ッも五ッもわからなくなると「オヤ大變と」氣がついて忘れたのは其儘覺えてゐるだけつけます。 是だから隙もかゝるし月末には帳尻が合ひませぬ。 一ト月二タ月箇様な出來榮ですと帳面をつけるのがいやになり、遂に家政を處理するに最も必要なる帳簿を廢するに至ます。 是を毎日つけて御覽なさい誠に苦もないとて帳尻は勿論よく合ます。 一寸帳簿の直接の利益を申さうならば賄が上手になります。 一先月は御金が幾々ら要た、何故コンナに要たらう。 サウ〳〵コンナ無駄な物をアラコンナ贅澤物を買ッたからだ」とかとて前月の帳簿を見るに後月節儉の手引となります。 また今月あたりのクラシ方ではどうしても四拾圓八十錢はなくてはならぬ、が旦那の御給金は七十五圓だから御交際費から萬端の入用を減くといくらも殘らぬからモチット節儉をして月々八圓か十圓は貯金をしたい物だがどうして節儉をしやう」と云ときは帳簿が最もよい相談相手でムいます、また帳簿を九月十月とつけましたら其十ケ月間の入費を平均して見れば來年一年の入用は大概分ります、 是が大變の利益でムいまして年中の作得なり月給が幾許ある、一年の入費は何程だサすれば

何程の殘餘があるから花に何圓位の冬着一郞に何圓位の洋服が買て遣れるソシテ何圓何拾錢貯金が出來ると大畧一年の諸入費が知れます。　まだ此外直接間接の利益は澤山ムいますがまづ是丈でも節儉の土臺となり未來の豫算が出來ますし金の遣ひ道はわかるし隨ひましてお鍋も幸福てムいます。

帳面を嚴につけるのハ前申通肝心な事ですが是と相並で必要な事ハ買物を掛買即ち通で買はず右から左で現金に買ふのです。　買物を掛買にするのが不足の基、豫算の亂れる第一の源因でムいます。　呉服であれ米であれ酒であれなんでもかんでも現金に買ふがよろしうムいます。「何故掛買はよろしくありません、無利足で品物を買て手元の金を融通すれば、よしさう致さんにした處が損はない筈」と仰せらるゝ方もありましやうが、ま一ト通記者の老婆心を御聞き遊せ。

お金が手元にあるとき之を拂てもよいが、ま、拂はずに末に拂ふとするは大した考へ違ひで日本は廣うムいますが此金は呉服屋に拂はねばならぬとて取除け置くお方は少うムいます。必らず其中に何か入用が出來まして末にはどうかあるだらうとて一方へ向けます。　すると多くは末に不足します。　是を若し現金に呉服屋に拂へば他に流通する氣遣はありません。

お金があるから餘分の買物をするので無ければ都合のつく迄延します。　また呉服屋だとて馬鹿ではありませんから掛買はソレ相應高く賣ります。　サスレば更に利の德はありません。いえ利つきの金を貸してるると同しです。　だから二重に損です。

若し又手元に金はなけれども何時幾日頃には月給が這入るとか銀行の利が這入るとかとて先の當をして買ふのは前よりモット間違でムります。　人間の生活には不時の入用があります。　イッ何時金の入用が起るかしれません。　入用が出來れば夫だけ不足を生じます。　平常餘有が澤山ありまして貯金でもあります御方はそれが減る丈ですが若し當てはめて消費された御方は不足丈借財が出來ます、利が損になります。

いらつめを購讀なさるゝ方には借金のある方はありませんが借金ほど損な馬鹿らしい物はないさうで骨を折て人の身代を太めてやるのでムいます。　思て玆に至りますれば現金買は遣ひ過ぎもなく損もありませんでしやう。

古い黑天鵞絨を新らしくする法

古くなると天鵞絨も毛が寐て仕舞ッて困ります。　之を直

すには天鵞絨の裏を沸湯に翳して十分に表まで湯氣を透らせますと不思議にも毛は起返ります。それから二人の人に天鵞絨の四隅を持たせて十分に引張らせ、そしてまた裏へ火熨斗をかけるのです。すると濕氣は去つて色艶が新らしい時のやうに見事になります。

小說

空行く月

美妙齋主人

第五回　では櫻か薔薇と色を競ひます。

沼へ陷つてのち美麗は、どうしました、死にましたか？　どうして〳〵、家は斷絶を恐れた昔の武士ではありませんが、誰が死んだと言ひましやう。もし此處で死んだといふ趣にすれば、なるほど看客の方々をば一寸駭かせられましやうが、それでは實も蓋もありません、この小說の種は盡きて仕舞ひます、空行く月が雲間の月となッて仕舞ひます。こゝで美麗が死んだといふやうに爲たいのは作者も素より望で居ます。けれどそれではねエ貴下……驚風でも御出あそばすと御氣の毒ですからなアもし（最期の間投詞は作者が此間西京の人に逢つて傳染したのです）。

美麗が陷ッたや否や弓之助も氣が付きました。あッと言ッたまゝ夢中です。腦の中には稻妻が晃めく位の僅の間に五ッ、六箇の思案がどか〳〵と掴合をはじめました。「あら……落ちた……沼へ……命……救はれた恩……助けなくては」……「一寸の間ですが、容貌は、まづ何に比へましやうか、オコゼとか言ふ魚がブランディでも飲んだやうです。

見る間に沼の水が二倍の擲躅をはじめました。これが切々になッて響いて「美麗さん、しッかり爲さいもウ大丈夫」。暫時經て泡雪の梨子のやうに水のぽた〳〵垂れる人間が陸へ無難に這上りました。水鳥は入替ッて美麗の眞似をしました。けれど是には德利の聲色が出來ません。あゝ人間には及びません。

海員であッただけ弓之助も水で溺れたものゝ介抱は心得て居なくもありません。それに美麗が陷るや否や直に救上げられたのですから水を呑んだと云ふばかり其外に別條はありません。水を吐かせて懇篤に勤ッて居る内に折よく其處へ農夫が馬車を驅ッて通蒐りましたから直に呼止めて我家路へ送ッてくれるやうにと賴み、その日は其儘歸りました。

昏れさうで昏れませんもの春の日を吝嗇だと言ふならば冬

の日は何でも角でも直にくれて仕舞ひますから氣前が美いと言へましやう。　塒へ急ぐ鴉の聲も既に夜半の霜を帯びて居るのか何處やら凄く、天を染た夕紅も餘情を池水に配分して假初の月影を鎔して居ますが、それさへも晃々として風の利刀を思出させる種です。　流石立派な舘の中でも冬はやはり哀です。　窓際にある臥床に横たはッて美麗な心氣を安めて居るものゝ、それは徒に名ばかりとなッて仕舞ッて、水へ落たため餘程逆上して居るその上に尚狩獵の事が氣にかゝッて色々に思沈んで居ます。　何か用事のあることゝ見えて此時にかぎり弓之助も傍には居ません。

「すこし身体を安めやうと思ッても我身で我身が自由にならない。　考へれば考へるほど世の中のとは辛いものぢやア。　交際社會ですあしは名を知られたその樂が有ればまた今度のことのやうな苦もあッて……思凝るとなまじひ花々しく今まで送ッて居たのが怨めしい。　いくらか鐵砲を取扱ふことには熟練を爲て來たものゝ、素より勝負は時の運……あした又不運でもしやんそこあッたらば……いつそこの身体の疲憊をさいはひに斷ッて出まいか知らん。　なまじひ出て後れを取ればそれまそ恥の上塗といふもの……「鮑を見てから水に入れ、魚を認めてから網を下せ」……覺束無いことに手を出さうよりは……はて斷ッてしまはうかなア」。

一度は引込思案が出て來ますが、根が利ぬ氣性ですから直に又其下から進取の思案が前の思案を剏却して仕舞ひます。

「まろしながらまふ考へれば出ないといふのも好歹だ、折角今まで斯うやつて花々しく過して來たものを……病氣だと言ッて斷ッたッてプリムニイの令孃だッて直に妾の心根を推察しないおそれ無い。　乾度推察して……推察すれば人々に其事を言ッて……さうなれば到底妾が卑怯だと言囃されるには違無い。　何も運だ。　勝つのが時の運なら負るのもまた時の運だ。　否さ、負けるのが時の運なら勝つのもまた時の運だ。　かまふ事は無い……こりヤア出た方が……なに些ぐらゐ身体が疲れて居るとて……名譽を失ふのは何う思直しても殘念だ。　まアそれにしても今日」……

「それにしても今日」……それから後は何でしやう。　今日水へ落ちた一條でも。　「今日」といふ一の言葉が心へ出現するや否や沼の邊の景色が現然と腦中に影を宿します。

「あの沼で……本當に桂さん……あれだから東洋の人だッて……直に……着物も脫がず飛込んで……心切に……引揚げてからも介抱し

て呉れて……素妾があの人を助けたその報酬として一ッは如此でもあッたのだらうけれども……全体他國の人とは思へぬほど風采もあッて、そして性質もうるはしく……それで妾もいくらか最初懇篤にいたはッても上たのだが……思へば今度の鐵砲の熟練を得る事に就ては誰より彼より一番妾の利益になる……

尊んで敬ふといふことが一歩を進めて親しくなれば其處で愛といふものが出て來ます。　今美麗が弓之助に對する考は……まだよくは分解りません……併し自分が弓之助を救ッて我家で介抱して居た頃ハ恩を人に施したのでそろらたゞ眼は弓之助を通常の仝胞の考で見て居たれハ疑も無い處です。　その内にいくらか相馴れる……處が桂弓之助は人に憎がられない質です（幾分か溫順であるにもしろ）。　そまで憎くもありません。けれど可愛いといふ程でもありません。　處へ今度ハ恩を施されました。　重ね〴〵の恩を掛けられました。　恩惠之を言替れば他に及ぶまで溢れる愛情です。　その恩惠の雨は石の心をも穿つものです。　まして其段に於てハもッとも感じ易い、花のやうな嬌弱い情を持て居のが婦人です。　今その花のやうな手弱い情ハ恩惠の雨を受ました。　今度誓ッて遊獵會へ出やうといふ決心を得るので弓之助の庇蔭です。危い命を取留るのも弓之助の力です。　それを思へば今更ではじめて弓之助を有難いと思ふ心が出て來ました。　有難いと思ッて來れば自然その人を愛する心もまた多少出て來ました。

日はいつしか名殘なく暮果てゝ闇に吹出された星影が天に天然の螢絞を引亘し晝間それとも見えぬ痩枝も暗黑の魔力を借て宛も葉がありさうに腕を張ッて居ます。　焚爐の火は金色に砂を噴いて光に洋燈に力を補はしめ、塞風ハ烟突に劈かれて悲しさうに歎いて居ます。　目に見、耳に聞く處、何でも角でも荒淋びて、それと共に置時計の運動も淋しさを胸に刻込みます。　幾度出るのも仝じ考です。去かし我から心を叱付けても猶翌日の遊獵會の事の想像は躍さずに回り回ッて心をいらざてに出て來ます。　物凄まじい夜の氣色、見て胸ハ傷とハ爲りません。むしろ思ひに薪を添へます。　左樣かとて弓之助（「話相手に來てくれゝばいゝけれども」）、我身の胸をすかすために他を呼寄てラム子扱ひにも出來ません。　時間と潮とは人を待たず」「夜は、ひとり美麗に取ての夜は溜息と想像とに送られていつか宿替を知らせる烏の聲のする頃まで過ぎて行きました。　會の時間ハ午前九時からとの趣です。　たとひそれで無ても床られずに床の上を横腹と背中とで引擦て居て

とてそから毎には似ず美麗も早く起きました。

朝になればなるほど今日の事が苦勞になッて堪りません。朝餉の時は弓之助と顔をあはせて食べましたが、利かぬ氣性だけに左ほど心配らしくも見へませんが、それだけ胸へ包む量が大くなりますから自然いつもほど顔色も浮立ません。それを見れば弓之助も内心に隨分惱ましく思て居ますが、さすが又「さぞ心配だらうとも言出しかねて、妙な工合で朝餉を終ました。　その鹽梅、變に兩方が改ッて居ること、全で夫婦喧嘩でも爲たやうです。　こンな場合はよくあることです。

扨これからが美麗の身には大事です。　さぞ立派に粧ッて出ても行きましたらう。　けれど當人もほとんど身粧にてあまり心が注まらない程です。　馬車を驅つて會場へ到れば快數多の貴婦人たちが思ひ〳〵に今日を晴と着飾ッて寄集まッて居ました。　そして紳士もすこしは居ました。

勿論會の名義は遊獵といふものゝ森をあさッて物を驅立、それを撃留めるのでは有ません。　兎や鳥の種類をすこしづゝ放ッて、さて皆競ッて撃といふ趣向です、つまり射的の出來損いはゆる動体射撃です。　正九時から時刻を違へず、五人十人と組を別て用意の馬に銘々打跨り、爭ッて撃立たのが凡五六番その次には美麗も組に加はッていよ〳〵今迄の熟練の卒業試驗に向ふのです。　向ふのはまだ恐ろしくは有りませんが……無殘……今度の組の中には憎いと思ふプリムニイの令孃が居ます。「是は全く此身の功を奪ッて自分が威張らうと思ふ決心ぢや」と　邪推か何かは知ませんが無念が快くもこみあげて胸も騷げば血も騷ぐ、それを知か知らないか、プリムニイの令孃はさも浮々した顔色で美麗の傍へ寄ッて來て一寸笑を含みました。　が、その笑も美麗には冷笑としか思はれません。

「今日の御挨拶はもウ濟みましたが、美麗さん、今度の的はよッぽど面白い、事に因ると誰にでも撃てずに仕舞ふか知れませんよ」。

心で之を迎へれば「誰にでも」の言葉さへ我を諷するかと疑はれて顔色も凡で無くなります。　けれど挨拶だけは勉めて常にかはらぬ体でしました、

「おやそれは面白うムいますね。　わたくしなどは猶更……撃洩らす方ですは。　何です、そして物は?」

「鹿の子です」。

「おや、それは」。

談話の中に聞えるのは合圖の響く喇叭の聲、更にも一ツ相

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

圖の聲が立つや否や馳出したれハ果して二疋の鹿の子です。一途に揃ッて追立てる蹄の響ハ花のやうな、やさしい人の身の下ゟ起るものとも思ハれません。　三聲四聲鐵砲の音も聞えましたけれどもまだ壯健な鹿の影ハ遥に離れて見えて居ます。　其處へ早くも組を拔いて第一番に先に立つて追行くものを誰かと見れば…感心…それが美麗です。　けれど後から力を籠め、乘越さうと鞭を加へて續いて行のはプリムニイの令嬢と外一人です。　後に聞える蹄の音、わづかな間にも振返ッて續くハ誰かと美麗が見れば競相手にプリムニイ……「發矢、馬や勵んでくれ…乘越されては口惜しい」。

鹿もやうやく追付きました。　プリムニイ嬢も既に後に迫りました。「こゝらで早く撃たなければ先を越されて仕舞ふざらう。」　身を屈めて狙を定め、撃てば…さア何う爲ましやう…彈丸は美事に外れました。「はや撃ッたか」とプリムニイも後れちやならぬと是もまた横の方から狙を定めてづどんと撃てば、流石は御自慢鹿を一疋倒れました。　見るに美麗は氣も半亂悦ぶプリムニイ令嬢の聲ハ耳にも入るか入らぬか「今一疋活きて居るのを…おのれ、やれ、プリムニイ」。心ハ何方も全じです。「今一疋のも撃留めれば…おのれなンぞにプリムニイが」。美麗の筒はプリムニイのより、一刻早く今度の鹿へと…生死のくるしみ…向きました。　さア是ゟどうでしやう。　うまく美麗に撃てましやうか。　いよ、美麗娘しッかりなさい。　さア今ゟ肝心要。

講義

用器畫法稽古ノ仕方第七回　ひ、さ、述

角度をアラビヤ數字にて認めたるときは末字の肩に小環を附して度の符號と致ます、例へば60°ハ六十度を表するが如し、猶前回にて己に90°54°又は60°30°20°等の角ハコンパスを使ふて書くことを御試みになりましたが、此他の角例へば40°10°等の角を作り、又は己に有る角度を測るには分度器と稱する器具を使用するのです、此の器ハ黄銅又は角などの薄き板にて半圓形を作り其周圍を刻みて百八十個の度目を盛りたるものです、之ハコムパスなどを賣る店にござります、其使用法は容易なれば玆に述べませんが一個ハ是非入用ですから御買求の上使用法を御考なさい」、

（三六）一個の等邊三角形をコムパスによりて畫き而して其角の各は幾何の角度を有するか又其角度の總和ハ若干度であるかを見よ。

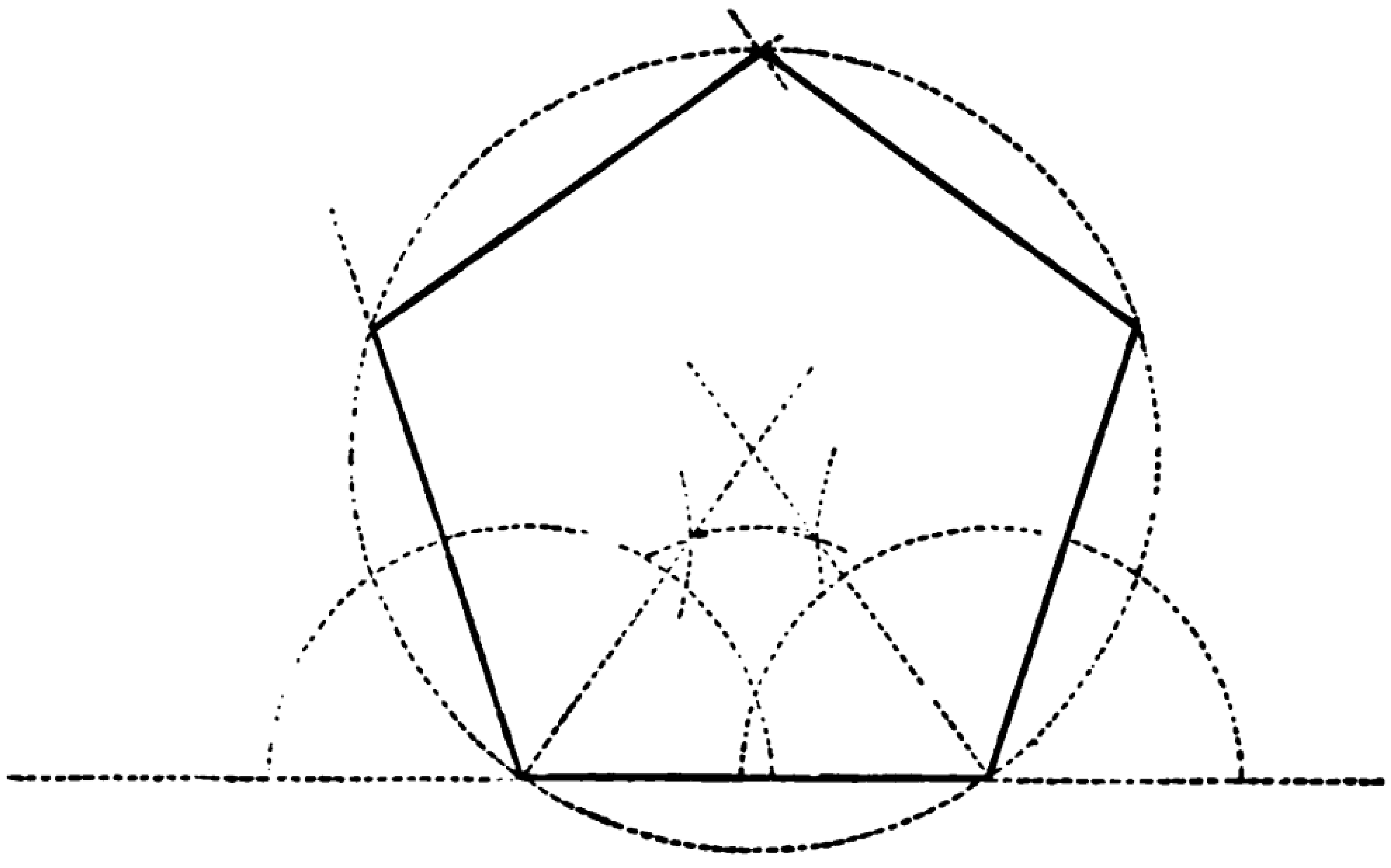
（三七）種々なる形の三角形を畫き、各其角度を測り各三角形の三個の角度の和を見るべし。

半圓形は百八十度の弧を有するとは己に御分です、而して二等

邊三角形にありては底を挾む處れ兩角は相等しき角でそとも御了解でしよう、故に百八十度の中より二等邊三角形の頂角れ度數を減して其餘角を二等分したるものれ其三角形の底を挾む所れ兩角の各の度數にあるとれ御了解でしよう、去て、百八十度は半圓形の有そる角度です、此說ユよりて次の問題を御工夫あれ。

(三八)底は一寸五分とし頂角は五十度を有そる一個の二等邊三角形を書く法如何。

(三九)一個以上の弧(又は圓ても)を畫ろずして一個の二等邊三角形を書く法如何、但し尺度も分度器をも使用せずして。



一個れ圓形を六個の等去き分圓に分ち、又八個れ等しき分圓ふ分つとは御存知でそ、去て其分圓の角度く六又は八で三百六十度を除しさる商に等しれとれ御了解でしよう。

然らば「

(四〇)一個の圓形を九個の等しき分圓に分つとは如何

五個又は五個以上の邊を有そる平面形を多角形と稱し、其邊の長も角も相等しれものを正多角形と稱します、而して其邊數によりて五角形、六角形等と稱しませそ、正多角形れ圓内ふ容りて其角を悉は圓周に觸るくものです、又正多角形れ其邊を底とせば之を其邊數に等しれ二等邊三角形に分つとか出來ます。

(四一)圓内に一個の正九角形を容るく法如何。

上圖は以上の諸說を應用して正多角形の邊の定りたる時(例へは此圖れ正五角形にて其邊は一寸と定む)之を畫く方法を示しさる圖式です、今別に解說ぬたさあいでも之を御覽になれば御了解になりましよう。

用器畫の答　いらつめ第十二號の部。

(十)兩圓の並び方を考へて一直線を引き其線中に各圓心を定め而てコンパスを排て半徑を定むべし。

(十一)れ御銘々御考次第に任して答を擧ません。

(十二)直線を引き其線中にいろ二点を定めいを中心として一個れ小圓を書き次ユろを中心としいを中心としたる圓の直徑ふ等しき半徑を以て半圓周ふ畫きて直線と會せし先又いを中心とし其會点迄を半徑として半圓周を書き此を數回連續して畫く。

(十三)圓形を畫きて其直徑を引き又此直徑ふ直角をなそ處の一直徑を引き尙之を下方に延長し四圖に示すが如く直徑の圓周を通貫したる点を通して斜線を引れ而して圓の直徑を半徑とし一直徑の兩端を圓心として弧を畫きて斜線を會せしめ次に其會点より兩斜線の交点迄を半徑として弧を畫くなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文藝美術

正本はむれつと（出來るだけの言文一致体）

美妙齋　主人譯（未了稿）

序幕宮中談話の場

本舞臺「えるしのオあ」宮中の体。こゝは今のは、女王、太子「はむれッと」、宰相「ぽろにあす」、その子「らアてす」、内官「うオるちまんど」、仝じく「こアねりあす」、その他臣屬いろ〱。

（王）。此身の兄君すなはち先君　御崩れなされてから以來名殘をしさもまだ消えぬ、吾儕などは無論のこと、國中をべて涙に袖を　絞るが道とはいふものゝ、思直せは世の義理に背くも國には易へられず、人らしい身も鬼となり、前の姉君今の妻、姉を此身の妃として　浮世に忍ぶ胸ぐるしさ。笑顏を見せても目はうるみ、葬儀に泣かず、妹背の　固めに泣くとは何事か　色々そちたち皆々の　周旋苦勞はありがたくうれしく此身も禮を云ふ。只しかしながら「ふオアちんぶらす」諾威新帝の此方の君の崩御を聞き、それでは國も衰へたらうとてざかしくも推察して　穩ならぬ處置は度々。此方に取ッては實の大事。それ故「ふオアちんぶらす」の叔父、元より弱い人であッて　まだその甥の企圖の程は夢の夢にも知らなければ　頼めば有繫餌に飢えた　獅子をも情義で賺さうろ。因ッて其方「こアねりあす」、及び其方「うオるちまんど」を今度の使者に使はして　諸事取料らはせやうと思ふ。勿論頼請さへ濟めば　それで事ははや十分。急いで行ッて濟ましてくれ。

（こ）。委細はのこらず

（う）。かしこまッてムり升。

（王）。此身も信じて頼むこと。そンなら二人

（こう）我君さま。

（二人は禮して退出する。）

（王）。これ「らアてす」、何か其方は願ふと言ッたが……はて言はずに居ては分解らぬ。此身へ望か、其方の願か。其方の父と此國とは頭腦が心と親しいより、双手が口に便利なより猶更深い間柄。必ともに遠慮なく何か望が得たいのか。

（ら）。有難うムります。何卒拙者に佛蘭西へ行く御允可を下されまし。先達而御即位の時、國家の吉事に雀躍して一先歸參いたしましたが、早その事も御めでたく　首尾よ

く終りましゝ次第、此上は今一度參りたうムります。
(王)「ばろにあそ」は許しゝか。
(ば) 如何ふも種々ねだられまして「終に許すの一言葉を」やうやく絞出しましゝ。辛くも承知と答へました。何卒御ゆるし下さりませ。
(王)。そンあら己も承知しゝ。是からは「らアても」其方の勝手、思のまゝに爲るが宜い。そして、あゝ、これ、「はむれッそ」、おゝさ吾子の「はむれッそ」
(は)。(傍辭) 親身の中で親身で無い。
(王)。まだ雲は其方の心を鎖してか。
(は)。雲どころでハムりませぬ。むしろ日ほどの處まで……子たるの道は盡しまそ。
(女王)。それ孝心は道理だけれど もはや喪服は脱去てゝ些今の吾君さまの 御相手とも爲るがよい。眼蓋を閉ぢて、いたづらに 土に埋ッゝ先君を 尋ねたとても詮ないこと。其方も知らぬ譯は無い、生者必滅といふ事ハ 世の末までも決ッた道理。
(は)。それは元より
(女) あらば何故其方ばかりが人並外れて悲しさうに見えるのか。
(は) こりや「見える」とハ思ひも掛けぬ……まこと悲しうムりまそ。痩た身まとふ藤衣、渦巻く溜息、なみだ川、哀果てた顔の色、それらばかりで愁のほどが 穗に出たのでもムりません。言ハゞそれらは外目の目的、誰にも出來る表向づくろひ。たゞこの胸の亂れぐるしさ、忍んで見ても忍ばれません。
(王) 如何にも可愛いその心程、さぞ先君も御悦び、が、其方の父君とて 一度ハ父にわかれたこと、その父君もまた一度は 父の柩に二度と無い 別の涙を濺いだらう。其處活殘ッて後の事を 執行ふのが子のつとめ、哀んで傷るれば此上も無い頑固といふ物。其方も男らしくも無い、忍無い精神手弛い心、支幹のあらぬ考慮は 天理に背いて罪も深い。誰でも知るべき事を思はず、世の常といふ事をも問はぞ、いやしい思に心を縛られ、 天に背くが、はて、道か。 實に天にも罪を負ひ、實に死者にも罪を負ひ、實に道にも罪を負ひ、また世の理にも罪を負ふこと。 世の理の主眼は生者必滅、人間創始の當初から 今日が日までも死人を見れば、誰でも天理と諦めて 心を毀らぬでは無いか。どうぞ其方も今迄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の歎きは土に抛ッて　亡父のとほり吾儕をやさしい心で取り扱かひ、　殊に大事の太子の身、　世にも安堵を為せるが何より。　及ばぬながら此身も叔父、其方のあたしい亡父が其方に濯いた愛情の　雨は、なみだか、眞心を　此身も其方に盡そつもり。「うヰッてんばるぐ」の大學へ　行きたいといふ其方の望は　だうも流石に聞屆けられぬ。　願ふぞ、何とぞ此處に居て　まゞ下走る吾儕の　底の泪を拭ふてくれ、臣下の頭領わが甥、わが子、　叔父が願ふぞこのとほり。

（女）。母が日比神かけて祈ッた願を空しくせず　茲に居て、これ「はむれッと」、「うヰッてんべるぐ」へは行かずに」……

（は）。それほど迄に仰れば　仰せ、それなら、從ひましやう。

（王）。でも優しい、さはやかな。　どうぞ居てくれ。　そンなら王妃、　あのおだやかな返答は　笑を含んでこの胸を　絹の如くに撫でゝ居る。　今日はうれしさ、喜ばしさ、　嘸かし天も御感納。　奥へ行かうか、　さア王妃。

（皆々奥へはいる。「はむれッと」だけ殘る。）

花のかをり　　美妙齋主人

佐々木豐壽女史が譯されし「婦人言論の自由」は近頃有益な書物です。　主人も一讀して感服したまゝ、仝じ心を述べて。

かをる、が　はな、の　まこと　あり。
つゆ　のみ　ふくむ、が　つとめ　かは。
たゞ　はづろしく　しがほ　され、
いろ、を　かざれる　のみ　ならば、
それ　うるはしき　くちびる、も
みづ　盛る　鉢に　ことならじ。

さそふ　みづ　まつ　うきくさ、の
それ　ならねども、　そり　あらば
かせ、に　つれても　かをれ　かし。
なでり、の　あめ、は、　見よ、　過ぎて
あらひいだせる　つき　しろみ、
ふせや、は　いかに、　うめ、の　かげ。

題知らぬ　くさりつなぎ　　美妙

あがらしに　ちゝ、　しも　ゆめ、や　たのむ　らん。
あき　はてぬれば　この　葉　さへ
ちりて　はかなき　しらつゆ、の
なみだ、を　わかつ　あさ、の　菊。
（くさりつなぎ。は）
この　み、をば　あらしの　かせ、の　ふきさめて

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

ちゝ、も　もぎゝ、と　あり、に　ける　ろあ。

昨日は、ゆふべは。　孤芳女史

きのふ、は　くさ、も　志ほれてし
　かき、に　あよひ、も　きりぐす。
ゆふべ、は　うめ、の　おぼろづき、
　こよひ、は　あき、の　もち、の　月。
きのふ、は　宇治の　ほたるがり、
　けふ、は　かはべ、の　にはか雨。
ゆふべ、は　うきよ　五十年、
　けさ、は　はろなき　本能寺。

野生の　花薔薇（第十四號のつゞき）　重陽禪郎

あくろよろらぬ　わが　いもと、
　金と　くらゐ、に　のみ誇る　母をも　今は　思ひやる。
むね　閉ちられて　騎行けば
　「モード」は　いま、も　只　獨　野邊に　佇み　殘り　作。
法庭に　出でゝ　晝過に
　昔は　戀歌　うたふ、にぞ　代言人と　うちわらふ。

乙女は　井戸邊に　もの思ひ、
　刈殘したる　うまごやし、に　一村雨の　きたる　迄。
富みたる　妻を　めとりし、に
　夫は　ちから、妻は　又　浮ぶ　心の　はやり好。
玉の　火床の　きらめき、に
　映るや　胸を　往返る　種々の　うき　思。
喜びつゝも　おどろきつ、
　見初めし　とき、の　少女の　その　眼差は　忘られず。
盃に　盛る　酒　見れば、
　うたゝ　野中の　眞清水も　思出されて　懐かしく、
華麗き　居間も　あとさらに
　眼を　とぢて　野邊の花　畑の　草を　夢に　見る。
賢き　むね、も　ひと　知れぬ
　思ひ、を　籠て　呻く　也、この身　自由の　身なりせば。
馬よ　騎りつゝ、　少女が
　赤足に　草を　刈る　時の　其日の　自由ありもせば。」
あはれ「モード」は　無學ある
　賤しき　者に　配偶て、　子供は　戸側にむらがれり。

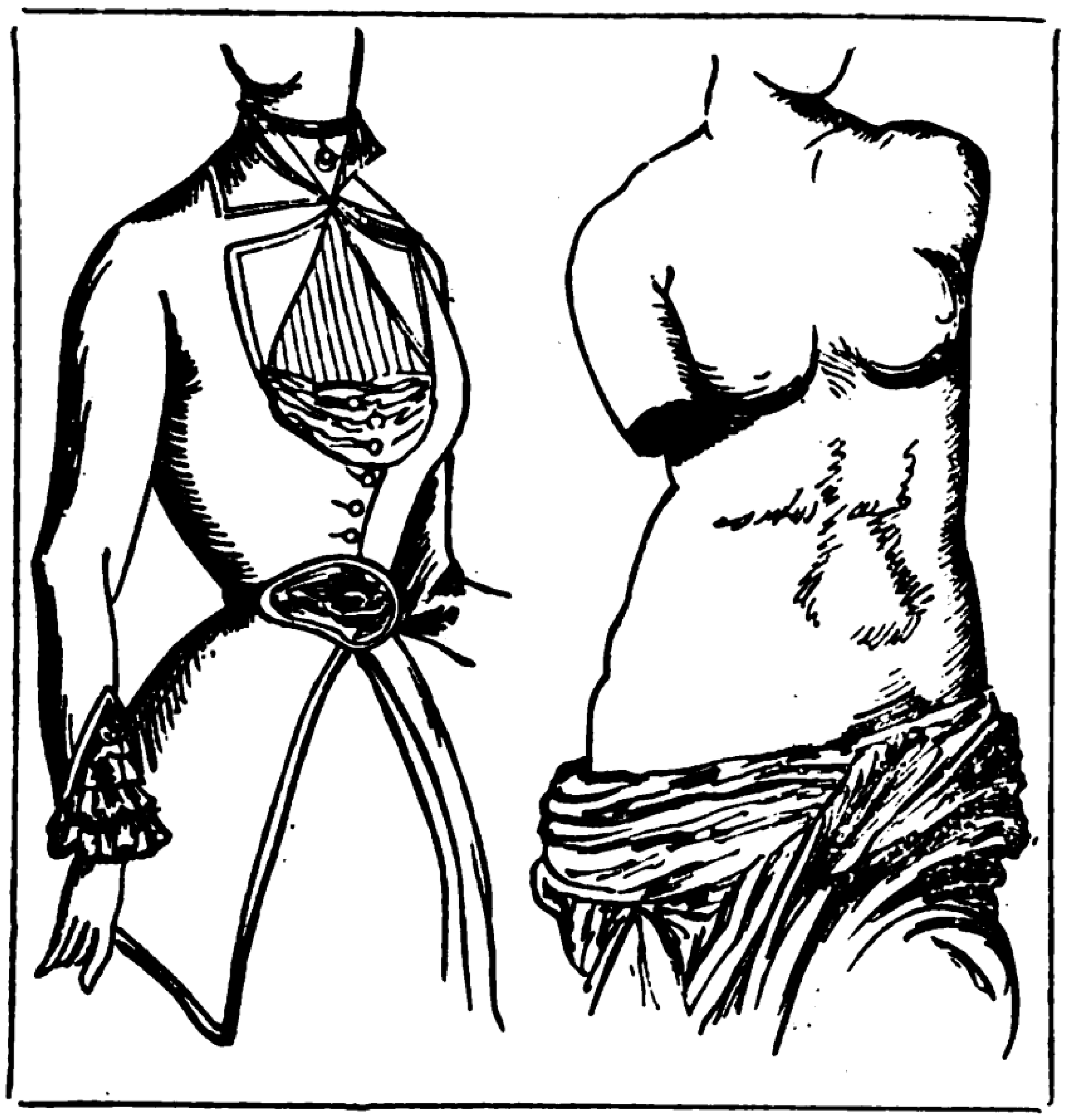
讀盡くされぬ　うきおもひ、
子供を　持し　苦みは　心に　むごき　痕を　附く。

雜纂

人工の片輪（西洋婦人の腰）

余は己に古來の仕來を墨守するが爲にハ文明野蠻の區別なく天眞を傷ふも道理に背くも無頓着なるに至るとの實例を掲げたり。是より天眞を傷ふと之最著しく道理に背くとの最甚しく隨て其害毒の最大なるものを述べて此論を畢らん。

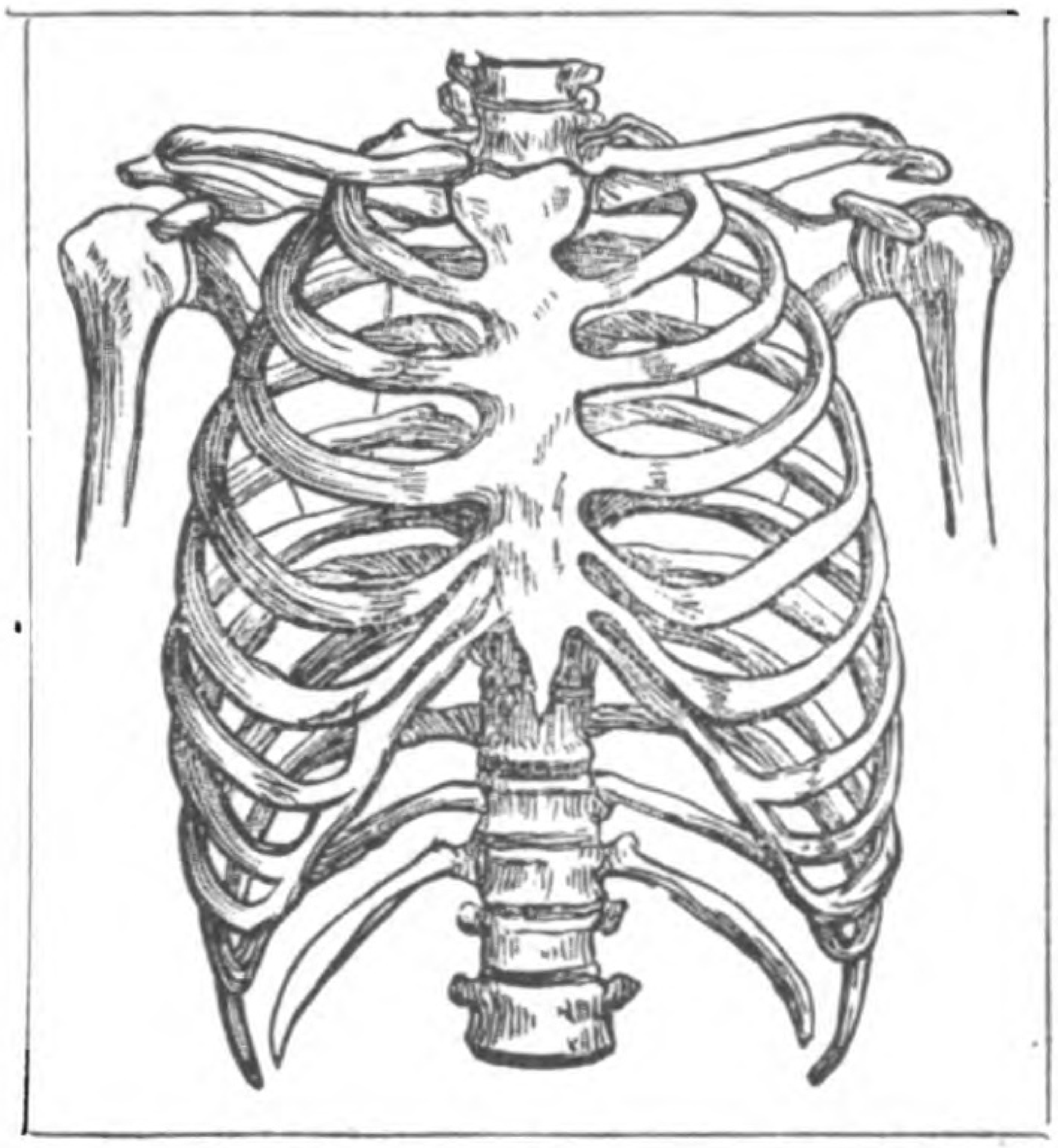
人体の中彈力を有し張弛自在なる胸膈ハ其特別の作用の爲に殊更かく作られたるものなれば其作用を十分に遂げしめんには外來の壓迫を受けざる樣注意すべきハ勿論のとなり。頭顱は其中實して稍一樣なる骨壁を有するが故に形は如何に變するも腦量ハ不變なるべし。如何となれば壓迫をうけて一方扁平なれは一方に張出して相償ふことを得ればなり。胴の部は即否らず上には肩胛骨の天井あり下には骨盤の床あり且長ハ脊骨の柱にて定められあれば四方より壓迫を受くるときは勢大切なる機關の占むべき場所を縮小めざるべからず。元來胸膈ハ硬骨と彈力性軟骨の數多の小片より組立てられ呼吸の爲に張弛自在に作られたる精巧の機關なり。さるから時の古今を問ハず地の東西を擇ばず胸膈は壓迫を受けず自由に張弛するを許されたるに獨中古歐洲の文明國にては腹部を絞りて身体の最要部を片輪とならしむるの風盛なりき。かくて此風習ハ後世に傳り今日に至りては歐洲人挙て希臘時代の彫像を賞賛するにも拘らず衛生に注意を傾くるにも拘らず日を逐ひ益甚しき有樣に趣きつゝあるなり。



希臘の女神ヴィーナスの像

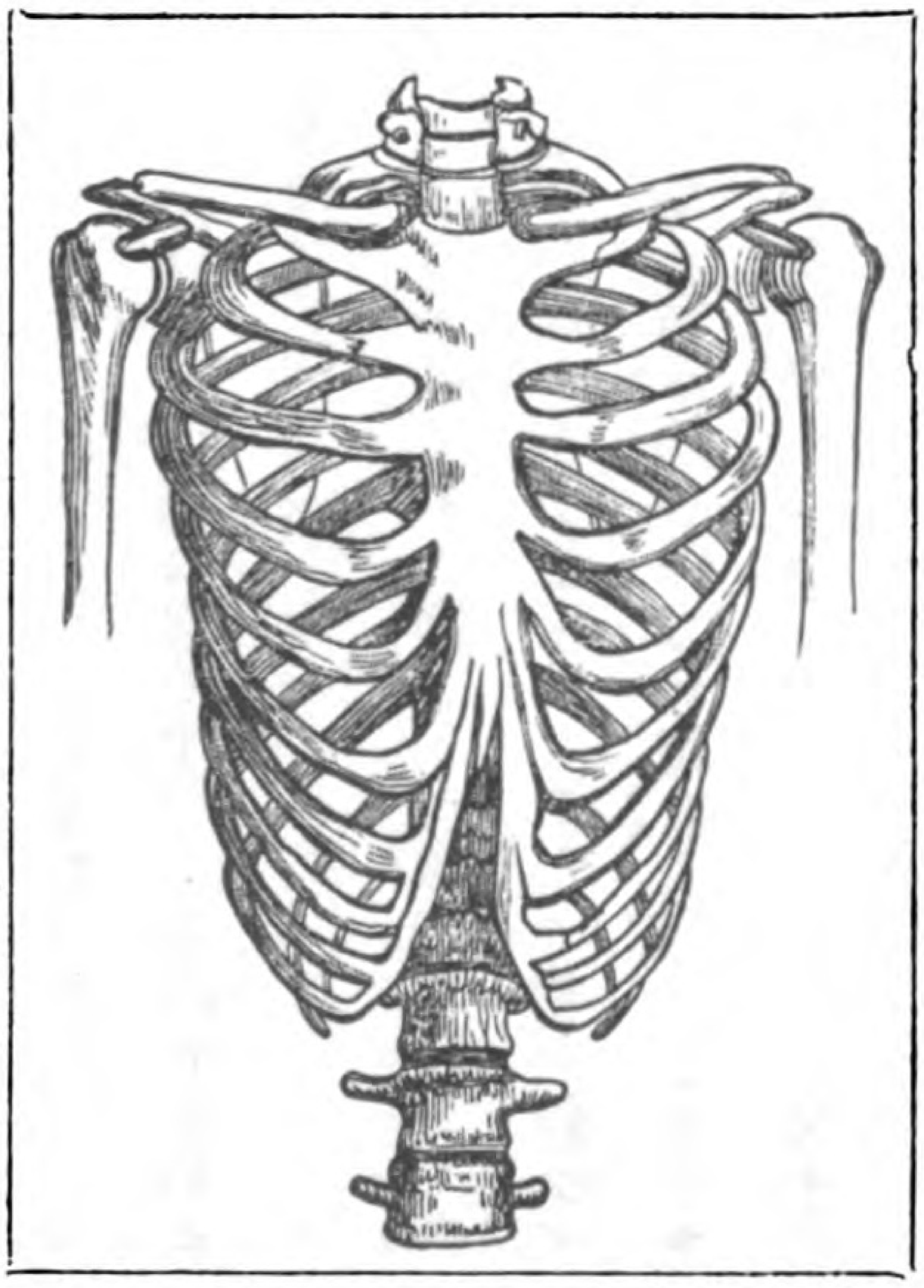
佛國巴黎人の新樣

今茲に掲げたるヴィーナスの肖像は工人社會幷に解剖家の共に認めて婦人身体の完全なる模形となす處のものなり。今之を以て現今流行社會の婦人の像と比較し見よ如何なる變化は其間に存するかを知らん。實際胸膈の骨格は如何に變化し



天然の胸膈

たるかは次の二圖を比較せば明ならん。一は天然の形にして一は久しく腹部を緊縛せし結果を示したるものなり。胸膈の外形變して其內臓の形狀及び位置を變ぜるの害は醫書には屢論ぜる處にして今更言新しく言ふまでもなきヿなり。今もしかく變化を受くる体內の機關は呼吸、血液循環、消化等生命に關る最要機能をなすものにして子孫の發達と健康に最大なる關係あるものあるヿを知らば此遺風を墨守するものゝ苦痛を感ずるは怪むに足らざるなり。



コルセットの爲め
變形したる胸膈

然れども人或は今日の流行風を以て古代の彫像或は繪畫に見る處の天眞の人体にも優りて美なりとなすものあらん。余は其說の是非を爭ふヿを止め論者の自ら反思せんヿを乞ふなり。夫のオーストラリア人に取りては鼻に植うるの留針は此上なき装飾あるべく(いらつめ第十二號參看)ボタキュードー、ポンゴ人、黒奴に取ては重き木片を唇に貫きて齦を露はし或は木板を箝て耳を擴ぐるを美觀とするあるべく(仝上)マレー人は自然の鄙仁を欺く皓齒を涅るヿを好み(仝十二號參看)アメ

リカの土人は天然の圓顱を賤めて棒砂糖形の頭容を喜ぶとを記憶せよ(仝上)然る後顧みて自ら問へ吾人は自然の外に美を求め徒に古來野蠻の遺風を墨守するは吾人が一も二もなく野蠻なり逆賤む處の其野蠻人と同一の過に陷り居らざるかと。

玆に於て知る實に吾人の細腰尖脚を愛するも是非を判斷すべき天賦の心を失ひ古代の高尚なる風俗に離れ自ら甘じて人間最劣等のオーストラリア人南洋諸島の野蠻、黒奴と伍を爲さんと欲す余は其何の心あるを知らざるなり。（完）

茶碗を打ッて年齢を悟る奇術及びその理。

此頃世間に一種怪しい卜占めいた事がはじまりました。それは名は何と言ふか、まだ定まッて付きも爲ない樣ですが、理屈は去年頃盛に流行した狐狗狸と同じ物です。　まず茶碗に水を半分ほど入れ、小錢を細い糸か毛で吊して其水に觸ぬほど、去かし水面に近づけて下し、指も手も靜にして放念して居ると、次第に、吊してある錢は左右或は前後に動きはじめ、段々力が強くなると茶碗をちん／＼と打ッて來ます。それでその錢を吊して居る人の年齢が二十歳ならば錢はかならず二十打ち、三十歳ならば三十打つといふ事で、隨分強く之を信ずる人は假に前に五十なり五十一なり好むまゝの數を決めて置き、もし錢がその決めて置いた數だけ打てば、病氣が治るとか治らぬとか、又はじめに奇數を打ッて終れば凶事が來る兆、偶數を打ッて終れば吉事がある事と決めて置いてそれで未來を占ふといふ新天眼通傳士も出來て來ました。

記者も一日面白半分爲て見ました。が、茶碗に水を盛らなくても出來ます。また錢で無くて、何か重錘となりさうな物でも出來ます。そして四十歳の人が行ッたくせに錢は平氣で十二三打つこともあります。五六歳の少女が行ッたくせに錢は頓着なく三十五六打つこともあります。尤も是は信じてかゝらなければ出來ぬ事です。それですから狐狗狸などゝ仝じ道理です。

人間の手はどのくらゐ靜にした氣でも決して些しも動かずに居るものではありません。そして物を釣ッてその糸が細くあればある程餘處の動力を鋭敏に傳ふるものです。手は決して動かなく無くはありません。それで又手に吊されて居る物は鋭敏に動力を傳へますから次第にその動力の傳はッた結果は錢の運動を起しまして、そして其運動が盛になれば自然茶碗をうつ譯です。それから又信じてかゝればその人の

齡をたしかに打つといふのは所謂神經作用で、自身に斯うと思ふ處から知らず〳〵の間に運動を止めて仕舞ふのです。

狐狗狸の理は去年の哲學會雜誌に出て居ましたが、今度のもまた全くそれと仝理です。事々しく持出して此處に載せるのも大人氣ない次第ですが、一寸御なぐさみ迄に原理を說けば上のとほりです。

近事批評

渡邊鼎氏洋服採用の可否。

束髮輸入の先達を以て世に隱れなき渡邊鼎君は近頃束髮に緣のある西洋女服流行の熱が次第に冷却し去らんとするを殘念とや思されけむ態々米國より「洋服採用の可否如何日本婦人諸君に告ぐ」といふ長文を女學雜誌に寄せられたる趣にて載せて仝雜誌百二十百二十二百二十三に在り。

今其論文を讀み其論旨を繹ぬるに一向浮泛にして取留なく議論規矩を外れ文章も亦輕薄一偏取るにも足らぬものなれば之を彼是と申すは大人氣なき次第にはあれども女子服裝の議論未だ一定せず女性の胸中には疑惑往來する折柄なれば知れきッたる誤をも辨せねばならぬことなれり。第一冒頭に日本人を目して盲人社會と云ひ日本女服の利をいふものを迷盲論者といひ日本女服を野蠻細工の服裝といひ冷評し盡し輕蔑し盡して復餘蘊なし。去りながら盲人と評し野蠻と品するは御勝手次第なり。余輩は唯目明論者の議論を陳列して一々吟味せんと欲するなり。

渡邊氏は「婦人洋服の事に關して種々の迷盲說ある樣なれども就中勢力を有すると考ふるは彼の西洋の人々が皆日本の婦人服を贊成して洋服に改むるを非難するの一事なり」と書出し「予が日本婦人服に關して數多の人々と談話せし處を以て之を考ふるに歐米の人は一寸表面的所謂追從には日本婦人服を贊成する者あり、然れども是の賞贊の意は一寸奇麗なりといふに過ずして其胸中毫末の經濟的、便利的、衞生的等の分子を含有せざることを記臆せざる可からずと語を繼ぎ是より外國人數名を引合に持出し西洋人の日本女服を贊成するは立派なりと思ふが故なり、而して其立派と思ふは曾て日本婦人の押し人形又は錦繪或は立派なる婦人服を見たるが故なりと西洋人の自白するを押へて其西洋人に日本服を着けたる日本婦人を目擊せしめ其目前にて散々に日本女服の不利の点のみを擧て惡口し遂に其西洋人をして「如何にも貴君の說明の如く不便利不經濟不衞生不格好悉く具りたる野蠻なり」といはしめ、是より尙歩を進めて「外國婦人方が日本女服を贊成する抔も追從言葉に過ず是も錦繪や寫眞人形位を見て奇麗と考へられたるに相違なかるべし、されば予輩は斯る贊成說を無効と信せざるを得ず、何となれば未だ自身にて經驗したることもなき日本婦人服のことにつき我國高貴の方々へ向て彼是善惡を申し越ことは万々あるまじきことなり、よしや經驗あるにもせよ之に付彼是嘴を容る如き不敬にも又輕蔑至極のことは必ずなかる

べしとて世說を一抹し去り「我國今日の有樣は盲人を乘たる帆前船が一之野蠻國を出帆して文明國に向ひ航海しつゝある者あり、暗夜の燈臺船中の羅針盤たらざるも一のハッテーラ位の用に供せんとの老婆心より我邦婦人諸君に向て忠告すると此の如し婦人諸君予か說をして盲者のラムプ聾者のピヤノと一般ならしむる勿」迚自說の直段付をして局残結れたり。

渡邊氏の說を翫味するに非洋服論は西洋婦人が力を添えたるが爲に盛になりたり、然るに西洋婦人ハ寫眞や押繪で見て唯一寸奇麗なりと思ひ實際身に經驗したる譯ならねば其勸告といふも追從口に過ぎ然るに其尾に隨きて彼是いふハ盲人の沙汰ありといふに在り。されども非洋服論ハ西洋婦人の尻押あるが爲に盛なるにあらず、始め西洋女服の我貴婦人間に流行せし事情を回顧せよ或最有力之貴顯が其政畧の一として貴婦人の舞踏を奬勵せしより靡然洋服の流行を來たし苟も貴婦人と唱へらるゝ身分の婦人にして洋服を着せざれば宴會式塲に赴くとを得ざるの有樣なりし。一方にては有力なる鼓動力あり一方には流行熱あるもの之を助くるが故に經濟衞生などの事は毛頭心に掛るとなく夫の歲入を一襲の舞踏服に費し一夜鹿鳴館裏に舞ふときは己に時好に後て復用うへからさるを不經濟とも心付かずコルセットーに腹を締め流行靴に足を攻めても不衞生とも心付かぞ勢利に熱中すると流行熱に浮かさるゝときは人言も耳に入らず故に局外に在りて獨醒を氣取る論者も無益に口を敲くとをなさず　此勢にて進むときは數年を出でずして羽衣蜂腰に化するならんと想像せしめたりき。夫の渡邊氏が首唱せられし束髮論の如く衞生上では何程の利益があり經濟上ではドレ丈の得分がある杯と最初から理窟で以て押し出せしものにても盛衰は免れざるも之を況して洋服論の如き理窟もなきホンの一時の流行をや。貴顯一たび勢位を去りて流行の熱稍冷却するの傾あり是に於て世の論者も諫を納るゝ隔よりそるの心にて時失ふべからぞとて經濟上より衞生上よりて其利害を論ずるに至れり。是洋服流行の始より今日に至るまでの成行なり而して洋服が今日の末路に立至りしは西洋婦人の勸告の有無に關せざるなり。よしや西洋婦人之勸告ありて差人意を强うするの効ありたりとそるも何の妨あらん。非洋服論者の論據とする處確乎たる理由あり勸告の事は有りとするも可なり無しとそるも不可なきなり。

是より渡邊氏が日本女服を不便利不經濟不衞生不恰好なりと斷案を下されし十ケ條の議論に付き其當否を評せんとす。凡一事一物利害相纏ふものにして純利純害のものはあらざるべし故に事物の利害を判斷して取捨を其間に决せんと欲せば兩者の利害を計算して利の較多きものを利とし害の較多きものを害となすなり。然るを唯害を措て利のみを擧るときは何事か利にあらざらん唯利を捨て害のみを取らば何物か害にあらざらん。渡邊氏は洋服の採否を論するに和洋兩服を比較せずして日本女服の一方を擧げ日本女服を論ずるにも利害之兩端を示さずして害の一端を擧げ氏の所謂經驗なき西洋人をして「成程日本女服は不經濟不恰好不衞生なり野蠻服なり」と云はせたりとて得々然として有の儘を書送りて日本婦人に告げて洋服を採用せしめんとそるは隨分お心よしにあらぞや。和洋兩服の利害に付きてはいらつめ第十三號に社友竹中成憲氏

の衛生上より經濟上より綿密に比較されされば再び茲に贅せず渡邊氏が日本女服の見立十ケ條を茲に摘載して讀者の一粲に供すべし。

(第一)　日本婦人服は前部開放せるが故に歩行するときには脛部迄現はれ風の吹くときは實に見苦るしき有様にして手を以て之を支ゆるに非ざれば安心して歩行すること能はず……

(評)いらつめ第十四號に載せる處の新案ある所以なり。

(第二)　長袖は兩手の働に不便なるのみならず腋下まで開け放ちてあるが故に戸外に出て强風に遇ふときは腋下胸部の柔軟なる皮膚へ直接に寒風の侵襲する危險あり。

(評)西洋女正服の肩を露はし腕を露はすに孰與れ。

(第三)　日本婦人服は上下一連續に出來てあり衣服總体の重みは皆一點の肩に持たせるが故に呼吸の運動を妨げ又は頭痛腦充血等の誘因となること少からず。

(評)コルセットの呼吸、消化、循環の諸機能を一時に妨ぐるものに孰與れ。

(第四)　帶を大層に腹に卷き着け眞に見惡しきのみか無益のことなり察する處是は品物は澤山ありても智慧の足らない野蠻時代に用ゐ始めたる遺物ならんか恐らくは世界に無類の愚品といふべきなり。

(評)見惡しい無益なりといふ點よりいはば西洋女服の腰の飾は日本女服の帶に過ぐること萬々なり天下の愚物何物か之に過ぎん。

(第五)　或人は和服に靴を穿つを良しとすれども和服の如く裾の纏ふ衣服に靴を穿ちては裾は直ちに汚れるのみか忽ち破れて頗る不經濟ならん。

(評)余輩は日本服を着て西洋靴を穿つことを望まざるなり。

(第六)　和服は上下に通じて開けるが故に歩行する際には衣服の裏面翻轉して露るゝを以て下着の裏面に至る迄上着と仝樣の上等品を用ゐざるを得ざるが故に不經濟なり。

(評)目に見えぬ處にも金を懸け目先ばかりを衒はぬ、日本人の特有せる奧床しき性質なり夫の鏡の裏面に精密なる摸樣を畫き出し下着に上等の品を用うるが如き其一斑なり此をしも不經濟として咎むれば夫迄のことなり西洋女服の表ばかりギラギラと飾り立て裏は紙子同樣なる如きは日本人の見込なしとして甚擯斥する處なり。

(第七)　和服は上下一連續にして且つ身の丈より少しく長き故に腰の周圍にて皺を作る等の不便あり。

(第八)　和服は洋服の如く自分の氣に適ひたる樣に形を拵へ置かざるが故に外出する度每に帶の結び格好を拵へざるを得ず車に乘るときは帶の形を損せざる樣とて背をくの字形にして坐するの究屈あり。

(評)七八にいふ處は和服の不便なる點に相違なし然れども之を以て洋服の腰の飾に比すれば孰れか伯仲なるを知らず。

(第九)　和服は總体開け放ちたる躰裁にして殆ど防寒の用を失するが故に自然數枚の衣服を重ねざる得ざるのみか殊に裾の方に澤山綿を入て重みを加へ裾の開放を妨ぐを不便極まる

(評)和服の數枚を襲ぬるは躰裁の罪にあらずして材料の爲なりもし和服を裁する毛織物を用うるに至らば洋服と異なることなからん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(第十) 日本婦人の服裝は總体體の中部に於て張り出し足の方に至り隘ませる故身体低く見え且足の歩狀も現に見え何となく下品にして見惡るしきも洋裝は躰の下部に到るに從て擴張するが故に身体も高く見え且足の歩狀も現に見えず如何にも優雅に泰然たる風なりて美術上自然的に婦人に適當したる服裝といふべし。

(評) 渡邊氏は此一ヶ條丈和洋の比較を取られたり美術上よりいへば和洋優劣を以て判すべきにあらず西洋女服のコルセットに腹を締ゑペチコートに裾を張るは美術上の好尙に迫られたるか故なり近來益裾を曳くと甚しく隨て腹を締むると益甚しく体を少しく前に屈むるにあらざれば後に倒るゝの恐あるに至れり和服にても袖を長くするに隨てフキを多くし帶の結目大なれば腰の下を細くするは自然美術に適したるなり之を下品なり見惡しといふは百步を以て五十步を笑ふといふべきのみ。

近刊批評

自由鏡 初編

醉死道人　小林雄七郎氏著、本町金港堂出版

種類は歷史的小說で、まだ初篇ゆゑその性質は知れませんが、兎に角鐵中錚々の新作です。　赤城二郎といふ俊傑と淡津英子といふ賢女とが主人公で、篤實な家扶もあり、私慾に眩んだ婦人もあり、その他白虎隊壯士の意氣込、當時の英學塾の摸樣などさながら目に見えるやうです。　文章に於ては取る處は無く、たゞ簡勁な筆と許すだけですが、しかし作者が人物の性質人情の變轉を描くに些しも我意を加へず、ありのまゝに寫做して人をして實に左樣でもあッたるかと思はせる御手際は失禮ながら今泰西の學に眼を曝した壯年の學者すら却ッて一步を讓るほとです。　赤城二郎の活眼も情熱のためにはいくらか惱まされ、英子の賢達も愛情のためには宛ら極めてあどけなくなり、また故緣に引かれて綾子が其夫の遺志に背き、或は二郎の母親が豪毅の間にも婦人らしい情をあらはすなど、その叙事の猶精密で無いといふ憾はまゝ有りまするが、しかしその道理に叶ッた書方といふ一點にて誰が不仝意を唱へましやう。　世話物よりは時代物の方は兎角理想の人間が出て來やすいもので今この樣に淡泊に、自在に書かれた作と言ッてはまだ日本にありません。

其他配合の巧なことは迚も今の生小說家が叶ふ處ではありません。　赤城が部屋に「之子有靈骨」の幅を掛けさせ、姬の箏歌に想夫戀の曲を用ゐる等其他前後關鍵したり何かする御苦辛の程嘸かしと且つ想ひ且つ感じます。

たゞ是は發端です。　中々關係の澤山ありさうな人物が色々現れはじめて居ますからその處置の如何に因ッてつまり龍頭も蛇尾ともなりましやう。　その邊が刮目して待つべき處です。

しかし胸のわるいのは態頭が許です。　あたら雪舟の畫幅に寺男の樂書です。　以來こンな愛嬌主義は何卒……

此初篇に就て稱すべきの大畧以上の類で、拙と評すべき、

否、巧で無いと許すべき所は許多の人物中一ッでも性質を明亮に書いて無いことで、殊に五臺某、松江某とは一人やら二人やら性質は全樣に見えたり、また大久保彦太郎の性質も活潑やら温順やらよく分解らなかッたり、そンな位の處です、文章は好くはありませんが、又否味ではありません。　何にせよ後の樂しみな著述です。

今世ひめかゞみ

關和正路氏編著　女學雜誌社出版　定價六十錢

全篇を衣食住禮式出納育兒の六篇に分ちすべて一家の妻女たるものゝ心得べきことは何くれとなく書き集めたるもので隨分重寶なる書物です。女權の議論盛になりてより義務を棚へ上げて權理を得んと狂奔するは今日婦女子のなべての通弊です。これは筋の違た話で女子が擔當すべき家内の事務即女子の義務を立派に仕遂げ得るならばあせらずとても女權は獨り振張されます。さて家政を立派に仕遂けるにはそれ相當の智識が必用で家政學といふ一の學科となつてをりますが我國では原因を措て先づ結果を求めるといふ風が行はれてをりますから女權擴張せざるべからずとて雜誌に著書に喋々する人はありますが　まづ女子に義務を盡すの道を親切に勸告する人を見受けませんでした。記者はかくまで時を濟ふの好著述を得るを喜ぶの餘り備ることを求むるの心もて本文に付き一二の批評をいたしましやう。

全篇理窟ポクなく實際を主とし各篇の首に揭げたる小序ともいふべき文章は語簡にして味永しといふべく皆經驗の語多く食物調理方衣服裁縫禮式等の細目に至りては料理通智惠の庫女禮式等に見る處と事柄に異りたることなく之をよく纏めて渉獵の面倒を除かれたるまでです。それ等の爲か疎漏な處もなくはありません例へば七十頁飲料の部に「世間にては大概茶糟を捨つるなれど糟は却て養生に適する滋養分あり且其他種々の用あれば徒に捨つべからず」とありますが眞逆茶を飲むときに茶糟も一所に食へといふことではありますまいそれならば如何して茶糟を用うるといふことかなければなりませんが何處にも見當りません。世間の人が大概茶糟の効用を知らないから捨てるのでしやう　それを著者が捨つることなかれと勸告しながら其用ゐ方を告げなければ讀者は隨分迷惑です著者のいふ通りに從へば臺處に茶糟の山が出來ましよう一筆を省畧したる爲め全章が何の益にも立ちません惜いことです。

禮式論の中一般の禮賓客に對する禮婢僕に對する禮は何れも人情に透りて敬愛の情が表はれてをりますまれを讀でも著者家庭の有樣が想ひやられます。

本書は女子の家内にありて爲すべき事即女子の義務に屬することはもれなく載せられたるべしと記者は思ひましたが一も看病のことに說き及ぼしてなきは如何なる譯ですか病人の取扱は日常のことゝ自ら別なるもので相當の心得なくてはならぬものです火災を遁るゝの心得まで載せたる親切周到なる著者が何故に此大切なる事柄を擊脫されましたか女子にして看病の事を知らねば女子の能事を了したりとは申されますまい家政の書にして看病の事を畧しては完璧とは申されますまい著者には別に意見のあるでしやうが記者には窺ひ知ることが出來ません。

婦人言論の自由。

佐々木豐壽女史譯。女學雜誌社。民友社。賣捌。

婦人のオシベヤリを禁ずるのは至當です。辯論を禁ずるのは甚しき不深切です。之を道理に照らして見ても、徒に婦人を束縛し、婦人の口をして只食物を許す門、たゞ陰言を出す關とするのも此上も無い無理だといふ事は爭はれぬ事實です。が、不思議にそ此考が倘世の中に無くは無く、そして殊に不思議なのは此女子教育の盛な世の中にこの事に就て一部の著述さへ出なかッたことです。有名なる佐々木豐壽女史が今度譯されたての婦人言論の自由は實に時に取ッての實丹です。譯文のそこし流暢で無いのは白玉の瑕ですが、それの主意に至ッては非難の入るべき點も有りません。

夏木たち

美妙齋主人著、本町金港堂出版。

是も美妙齋主人の物ゆゑかきてれ評は爲ません、たゞ淨披露ばかりです。

流行

衣服

少女の帷子。　まだ殘熱も退きませんゆゑ移り變りの物の準備もさほど有りません。が、裏葉柳に亞いて少女の間に行はれる帷子の色合は淡白茶で、着て見たところ、あまり上品でもありませんが、之を流行として見れば捨てたものでも有りますまい。

單物。　たとひ上等の品でも色合の暑くるしいのは時候がら人に嫌はれますので、白地の廉單物が大層行はれます。凡のも縮のも仝樣に勢力があります。

阿波ちゞみ。　あまり人氣がありません。

半襟。　摸樣の緻密なのは槪して野暮らしいとて賣れません。併し、あの頃この半襟には妙な流行が始りまして、或は自身の名に因み・或は時候に相應して色々なのを變て用ゐる風流な令孃が有ります。たとへばその令孃の名が梅子ならこぼれ梅か鈴梅の摸樣の物を用ゐ（裏梅で無くて仕合）、雪子なら雪形の摸樣の物を用ゐます。又時候に相應して用ゐるといふのも春はうつろひ櫻とか、花桐とか、夏は淸水摸樣とか、螢とか、それぞれ其時候から縁のある物を掛けますので、或る令孃は此比葉越の月の物を掛け、また或る姫君も風柳の物を掛けて居ます。

器具

茶臺の復古。　あの人柄な昔の高い茶臺が又復古して行はれはじめさうです。むかし蓋や臺に色々な好を施した方が

多く持囃されるやうで、無地のものなンだか片隅へ押付けられさうです。

若狹塗。　若狹塗が一寸小奇麗なため次第に菓子盆や烟草函、硯函或ハ香函となッて諸方に用ゐられて來ました。　しかし、御求めになるなら、青貝の入ッたを御買ひなさらぬ方が宜しうムいます。　一寸見ると青貝が入ッたのハ大層奇麗ですが、年月が經つ中には青貝が漆の表面へ浮出して來ていけません。　その外の貝を細末まして塗込んであるのならその患は有りません。

梨子地の筆軸。　梨子地のペン軸或は筆軸を好んで用初めた人が有ります。　美事なのは言ふまでも無いことです。

提灯形の洋燈のホヤ。　是ハ少々流行しますそ。　しかし隨分破壞れやすうムいます。

帛紗。　從來の縮子を廢して新に裏表とも西陣織で作る流行があります。　行末行はれるかどうだか其邊はまだ知れません。　帛紗の定紋は影紋がハやります。

汝自要用の人となれ然る後汝人の重用する處とならん世界至る處兩手を擴げて汝を使つものありと思ふなかれ

エッヂウォルス

化粧

肉色を麗しい薄紅色にする法。

之ふは第一が皮膚を清潔にすることで第二は左の藥品を用ゐて血液を清淨にするのです。　藥品ハ即ち

サアサパリラ（Sarsaparilla）といふ植物で、その根四オンスを六十四オンスの水ふ入れ、四時間煮立て、それからサアサパリッラを取出して丁寧ふ突碎き、更ふそれを前煮立てた水へ入れて三十二オンスに煎じつめ、それから絹で漉して了り、それを二オンスづゝ一日に三度內服するのです。　斯うすると血液ハ充分に清くなり、なほ度々沐浴して皮膚を清潔にすれば美事ぅるハしい薄紅色ハ出ますそ。

顏の肌理にある汚物を去る法。

顏の肌理ふ黑い汚物があッて、見たところ不潔です。　之を除くにはジン（杜松子酒）を一週間に二三度ほど、寐る前に顏へ擦込んで直ふ洗落さず、翌朝冷水で充分ふ洗ふれです。　之をしばらく行ッて御覽なさい、乾度取れて仕舞ひますそ。

雀斑を去る法。

横濱　大〇み〇子

雀斑を去るにも兎角危險な法がおるばかりで安心が出來ま

せん。　たゞ成功はちと遲うムいますがレモンで洗ふのが先無難な法です。が、洗ふ時に石鹸を用ゐてはいけません。たゞ冷水とレモンとで洗ふのです。

次號に掲載する化粧法いろ〳〵

齒の色の黄色なのを除く法。

手の爪をうるはしくする法。

通信問答は前號にも前々號にも載せる機會を得ませんでしたから今回は集めて掲げました。お問答の方々に遲延のお詫申上げます

紫園令孃へ

仰のとほり西洋では寳石貴金屬に色々に意味をつけて用ゐることもありますが、これは記者も澤山は存じません。たゞ折角の御問合ゆゑ記臆に殘ッて居るだけを申します。

金剛石とろいふ樣な無色のものは貞潔、淸淨、信用、うれしさ」などの意味。紫水晶のやうな紫色あるひは菫色のものは「情と誠實」、あるひは「情欲と惱ぐるしさ」といふ意味。孔雀石、綠玉のやうな綠色のものは「末たのもしさ」「永世不滅」、またゝは「勝利」などの意味。紅金石のやうな紅色のものは「熱情」あるひは「神の愛」などの意味琥珀或は黄金のやうな黄色のものは「繁昌なこと」、「いさましさ」などの意味。そして盲水晶黒燿石電氣石練鐵のやうな黒色のものは「沈着」、「平和」、または「憂鬱」の意味になッて居ます。

荻野令孃へ

（一）レースの編方の充分に書いてある書物はまだ有りません。

（二）西洋樂器取扱法の書物も全上です。

敷島さまへ

御申越の日本語彙の中では此間瑞穗屋から出た物集高見氏の日本大辭典が今の處まづ一等でしやう。

一條孃令へ

指環は主に小指の隣りの指へ（くすり指）をすなはち親指から算へて第四番目の指に嵌めるもので、これは他の指ほど此指は運動が強くしない故です。　また重に左の手に嵌めるのも全じ譯で、左の手は右の手ほど荒いことに接さないゆゑです。　指環の嵌處によッて意味が違ふといふことはよく存じませんから申しません。

（二）花鳥の音色」といふのは惡いといふことで、これは細川幽齋が烏丸光廣卿に答へました。　耳底記に一寸出て居ます。　たゞし仔細はありません。

（三）「うつくしき」と「いつくしき」と元は相全じなのです。

華園令孃へ

（一）「さゝがにの雲介」とつゞらせるのは本居大敬正の狂体長歌にも見えて居ます。　まじめな處へ用るのはちと……

（二）「イースト、リン」はウード夫人の小説です。

（三）

八文字屋物にハ卑猥なものがよく有ります。好色一代男などハ無論上品でハありません。(四)紐育のコルゲート商會から賣出す香水「ロヅドーラ」杯は割に廉價で、アルコール分も薄く、一寸人好のする物です。一瓶(一オンスとすこし)五十錢以上色々あります。(五)それは何方とも御随意。

あさ子さまへ　辰巳小二郎氏の雅語綴字例の評はいらつめ第六號にあります。

つる子さまへ　「オナモミ」の葉が顔色を白くするに効、用が有るか無いかこれ御尋ですが、これは記者にハ何とも申されません。どういふ物だかわかりません。

岡山令閨へ　レースを洗ふにハ次のやうにお為さい。まづ「カムブリック」のハンケチで靜にレースの塵をはらひ、それからレースの角々をます〳〵く枝の上へピンで張留め十分張ッたところで羽楊枝か柔い筆に「テーブル、ビール」を付けてそろ〳〵と洗ひ終了ればそのまゝにして乾くまで置のです。

雪枝さまへ　姿見鏡を清淨にするにはまづスポンジへ燒酎あるひハ杜松子酒と水と交せたものを浸し、それでそろそろと拭ひ、その後絹の切で拭取るのです。　スポンジのかはりに眞綿を用ゐてもよろしうムいますが纖維がよく鏡の面へ吸付いてあまりよくありません。

岡田とり子さまへ　鐵の物の汚鏽を去るにハヤスリ紙に石炭油を付け、それで磨くのが一番早い法です。　ヤスリ紙は西洋小間物屋にあつて極やすいものです。

岡田翠烟令嬢へ　病室の臭氣は大抵左の方で去れます。ブリッキ板の上へ咖啡をのせて火に焙るか、砂糖を火で焼くか、酢を撒布らすか、あれで大抵よろしい。

花子令嬢へ　部屋のペンキの臭氣を去るにも其部屋の隅へ清水の入ッた桶を置くのです。

甘露女史へ　手軽即席汁粉を御尋ねになりましたが。あれは如何に野暮な下戸の記者とてまだ思掛けませんでした。御答でも御無論懐中汁粉で御不満足な女史ですから一通り。それハ御合點なさるまいと存じて、一工夫をつけました。それハ御存じでもムいましやう、菓子屋に干羊羹といふものが有ます。それを熱湯へ解かして御覧なさい、實に旨い(唾が出ますよ)品のいゝ、すべッまい、ですつかぬ、甘い(辛くつては大變)汁か出來ます。　之へ白玉を入れて御覧なさい。　そら大變な上品が出來ましやう。　是ハ實地の試驗もしまさ。が、結果ハ大上上でした。　如何でそれでは御氣に入りませんか。

獨語「あゝ考もうまいが品もうまいて。」

此度の通信問答ハこのとほりうまアい御馳走で散會といたします。　皆さん左やうなら。　また來月

餘興

餘興に關はる御手紙は成美社餘興記者あてに願ます。さもあければ沒書にします。　御手紙の文字も丁寧ふ御書きください。記者の幸福は勿論淑德の一端でムいます。

皆當なれば十六十七號進呈　新謎　〆切十月五日　其後よれ沒書す。の分

（一）　出題者　神田　しづ女

母其娘ふ向ひ「阿若よ次に來て居る者は誰そ見て御出で」と云ひければ娘「妾が其名を當てゝ見ませやう」と云ました購讀の方々もあて得るやいかふ。

（二）　出題者　美濃　撫箏女史

平生は白衣をきて狹き家にかくれてゐますが時を得れば赤き帽を被りて盛大なる式場に待べるものはそも何ぞ。

（三）　出題者　函舘　たけ女

丈高く頭大きく前後左右に顔あり日中はねむり居るものはなアに。

（四）

見ぬ中は人々が大層みたがり見て終へば然樣な取扱をするものなあに。

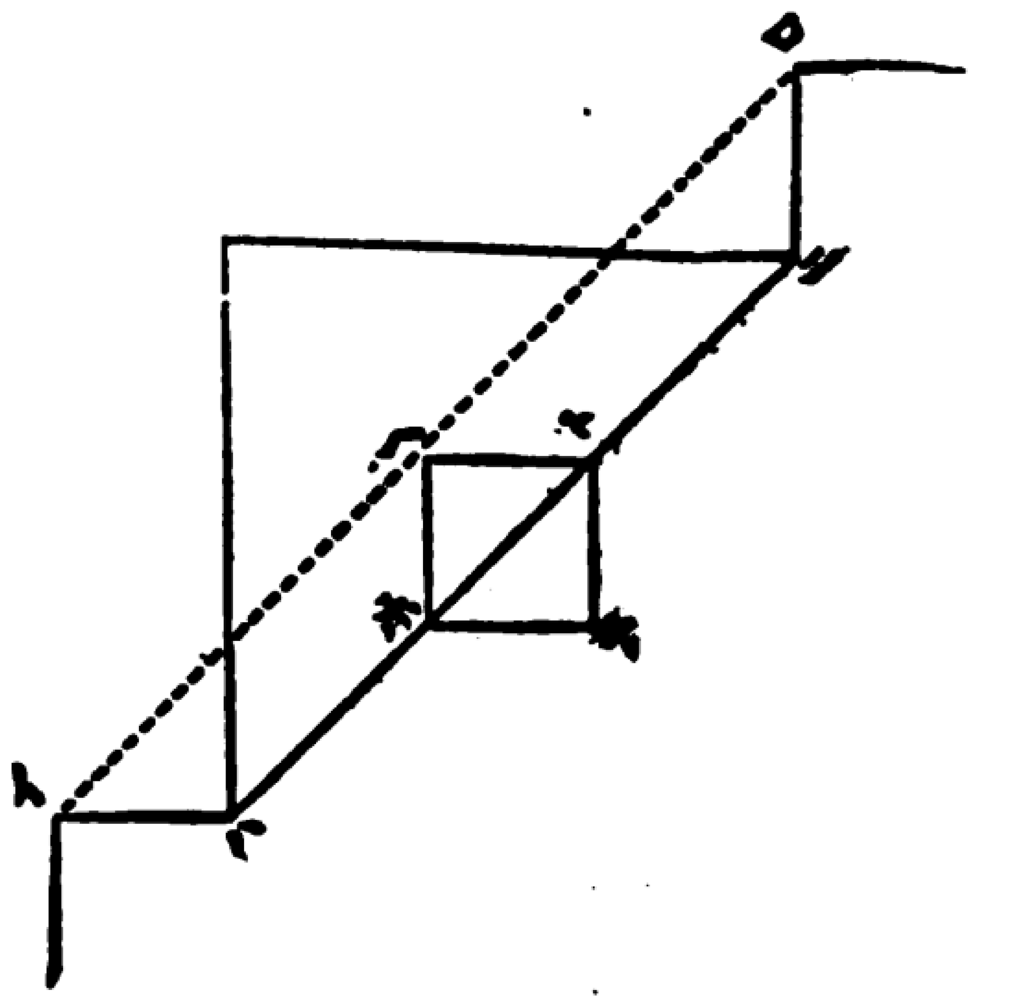
（五）

人眼にかゝらずに車につひて來てつひて行く者はなに。

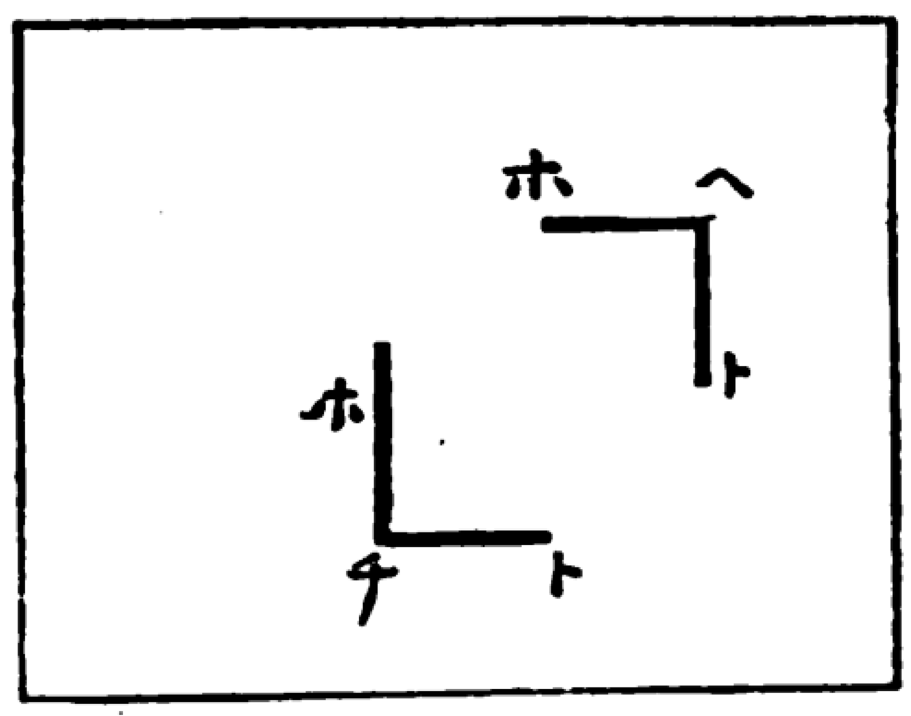
御投寄の新謎の中弊社にて掲載いたし候はゝ當號一部づゝ進呈いたすべく候

いらつめ第十四號餘興之答

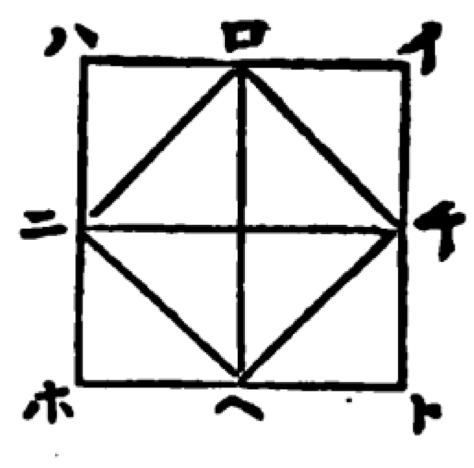
甲圖



乙圖



丙圖



（一）　是を解くのはよほど狡猾な法で、まづ甲圖のやうに適宜にイロの通り紙を折り、更にハニの通り折り（是はイロに並行して）ハニの上に一点ホを取り、ホヘを引き、夫からヘト、トチ、及び、チホを引き、其處で紙を開けば甲圖はかそつて乙圖とあります。

さて丙圖について御覽あさい。　ロイ、イチ、ヘホ、ホニは既に引いてあるのですから、それからニロ、ロハ、ハニ、ニチ、チロ、ロヘ、ヘチ、チト、トヘ、ヘニ、この順序で引くのです。さうすると難なく出來ます。

（二）くたに　第一、九谷（陶器の名）
たまご　第二、玉子（鳥などに屬する物）
にごる　第三、濁る（澄むの反對）

（三）人（人の生れた時は四足で這ひ、生長しては一本だちにあッて兩足であるき、そして老年に至れば杖に縋り三本足であるく）。

（四）茶の湯の釜

（五）玻璃の蠅取瓶

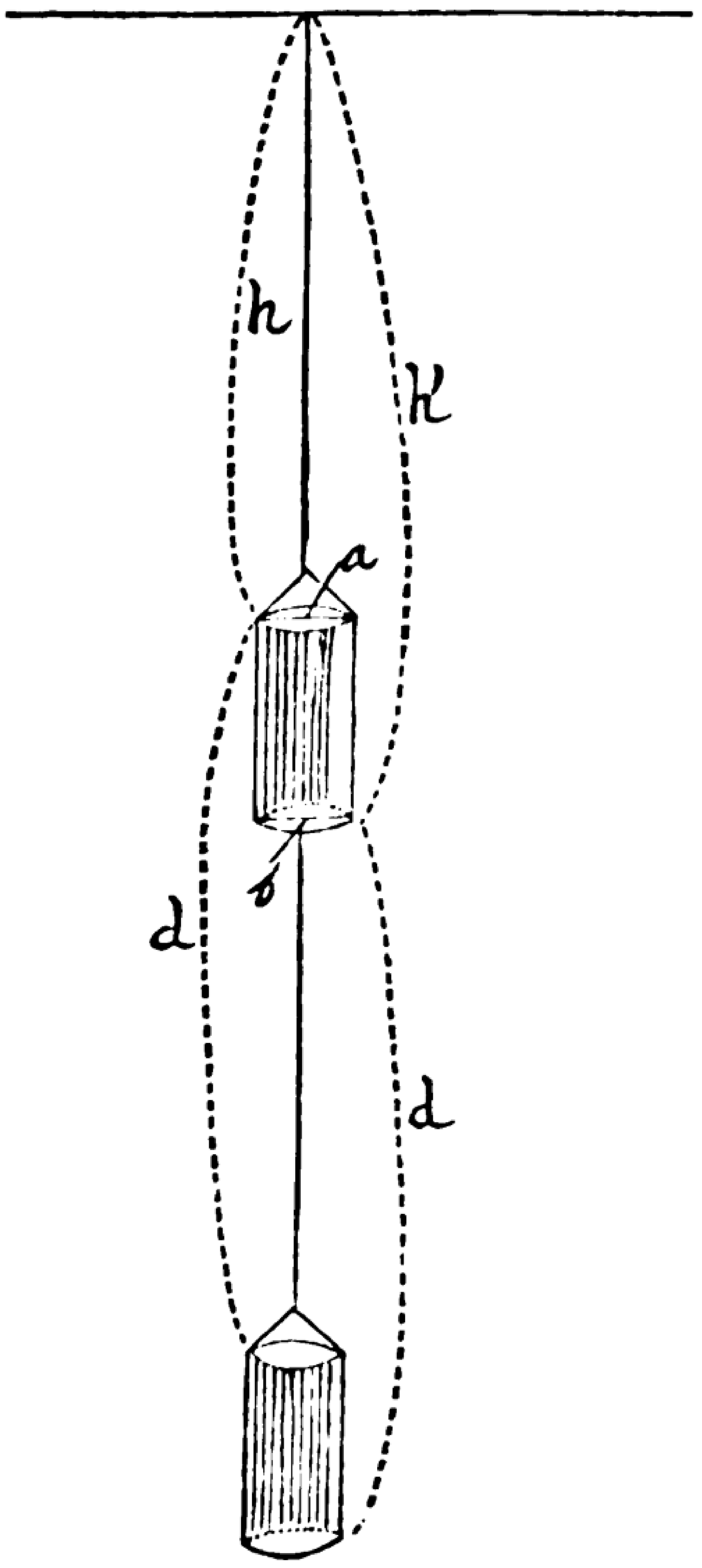
皆答者　小川とら子▲稻垣貞子▲朝霞散史

記者申上ます　いらつめ第十三號謎第三長くあれば長くなるほど軽くなるものといふ謎の解を十四號の紙上に掲げましたる處看客諸君の中より續々の御手紙にて記者のいふ處も餘り簡單に過ぎてドウも腑に落ちないから丁寧に答辨せよと御依頼の方もありまた記者は誤魔化しだからイデ理窟を以て其化の皮を剝ぎ呉れんと驚鳴り付けらるゝ方もムいました其中ゑゝおゝ君の御論旨が最綿密でムいますから左に掲げます。

いらつめ第十三號謎の解につきて　麹町　ゑゝおゝ

（前客）　此測深錘は實際上舟子が感ずる處なるか又た理學上より考ふべきものといふに記者も水の壓力のことを承知なれば解ると説かれましたから海底に潮流があるとの附帶説はあき事と存します

測深錘も水中に入る前と浸入したる後とは（其水界の前後）大に重さに輕重あることあれどもよしや此の如き解は許されまいと信します水中に投げたる測深錘とまで明かに圏點を附せられたるにても知れます



先づ一寸圖の如く鉛の圓柱を水中に投げ入れたると考へて見ませう而して此圓柱の上下に受る水の壓力を考へて見ますに先つ柱の上面積をaとし下面積を(b)とし水面より(a)面迄の深さをhとし(b)面迄の深さをhと假定しますれば壓力の法則によりてa面を壓す水の力は$a \times h$ b面を壓す力は$b \times h'$でありましやう斯くしますれば上壓と下壓との差は$bh'-ah$でありますそ即ち此差は物体と同容積の水の重量と等いのですから之が浮力でありませう又圓柱を見ますればaもbも同じ平面積であれば$a=b$ 故に$h'-h$なる式も見えます若し一層線を延ばして圖の如く下くることl丈を深くし即ち長くしたらば如何なるやといふに今度は水の深さを增せば增すほど上下共壓力が增します然し上から壓す力の加はる丈亦下からも壓しますから其差は毎も同じことでありませう

此場合に於て上面の壓力は$a\times(b+d)$下面の壓力は$b\times(b+d)$而して浮力は$b\times(b'+d)-a\times(b'+b)$でしやう然しながら$a=b,d=d'$でそから亦$(b'-b)$の式を得ますして見れば$(b'-b)$の形は毎も變りません　水中の上の方だからとて下の方だからとて鉛などの比重がかはりて來ることはありますまいして見れば線が長くなり即水が深くなりたりとて此錘が輕くなると云ふことがありましやうか又短かくなつても同じ水中なれば重くなるといふものでありましやうか私の考へが間違ひかは存じませぬが記者先生へ御尋ね申上ますどうか次號の紙上にて十分に嚙でくゝめる樣に御解說を願ます

ゑ、ゐ、の君は記者簡單なする解をいたしたのを推考せよとの謎ならんと思召したと有升が記者には左る嗚呼ケ間敷考は毛頭これなく唯測深錘との解と其理窟は壓力の爲たと申せば聰明ある讀者諸君のことなれば「ソウか氣が付かなかつた」と言下にお悟りになるだらうとの優しい考でムいました。然るにかやうに綿密に御研究下さるとは記者も殆望外の喜です。そこで記者も謹て答辨いたします水中に投したるものは深くなればなる程壓力の增すものですが上から壓す力が加はる丈下から壓力も增すから畢竟其物が受くる壓力は水の深淺に拘らず上下壓の差は毎も同樣といふとは申す迄もないとで記者はゑ、ゐ、君のお論を其儘拜借いたします。最後に君は「水中の上の方だからとて下の方だからとて鉛などの比重が變るとはありますまい」と申されました。成程鉛の比重は變りませんけれども水は深くなるに隨て壓力を增し壓力が增すに隨て密度を增します。だから鉛の比重は變りませんが水の密度は變ります。さて密度の增すとも井戸水の深さ位では實に些少なことですが本々測深錘は井戸の水を測るものでなく千仭の海を測量する機器です。大西洋や大平洋の深い處では四千六百尋から五千尋も立つ處がムいます。最早此深さになりますと水の密度は非常に增して底の方は殆ど舎利別のやうにドロドロになつてをるそうです。てうど淡水よりは鹹水の方が物を浮むる力強きが如く上層の水よりは下層に至る程物を浮むる力が强よくなります。皆樣の御存知の通り死海と申鹹味の甚き海では砂や礫が浮いてをるそうです。それだから測深錘を深く入るれば入るゝ程輕くなります。これは實地に試驗をして見ることが出來ますが煩はしうムいますから省きます。

月報

○名古屋淸流女學校の設立　名古屋は女子敎育の最も振はざる地なりとは嘗て聞ける處なるが客年愛知女學校の設置ありて女子敎育の端緒を開き今又新たに名古屋淸流女學校なる一の女學校を設立せられたりと聞く記者は同校が其名の如く積年の惡習を洗滌して名古屋の女子をして淸流につかしめ賣淫國の名を淸められんことを切望するになん

○茨城婦人協會　客月三十日上市大町女子講習會場にて同會を開きしが出席せしもの凡六十餘人なりし由因に記す同會は

昨年創立以來會員は已に二百餘人に達せりと

○和歌山縣尋常師範學校女子部　和歌山尋常師範學校にても來年度より女子部を增置せらるゝ由

○婦人和歌會　京都の婦人にて和歌を嗜む上田重子、芝山益子、三輪貞信外六七名の發起にて每月五日に歌會を催し光風社と稱へ其會長には下田歌子を依頼ありたりと云ふ

○慈惠院看護婦敎育所　同敎育所にては今度十二名の生徒を募集せられ入學試驗ハ多分十月上旬に執行せらるゝといふ試驗合格者ハ見習として採用し再試驗の上看護婦生徒とし每月金七圓の豫約を以て修業せしめ卒業の後方法を設け辨償せしむる規則の由なり

○靜女塾　神田錦町の同塾は多年女子敎育に從事したる平尾光子女史の家塾にて十年以前より懇切に敎授し來られしが今度更に校舍を駿河臺鈴木町二十番地に移し本月二十日より授業を始めらるゝといふ

○愛和女學會　豐前國行事驛に愛和女學會なるものを設立し先月開會式を執行し十四年以上十八年以下の女子に女子必用の學術手藝を授くる由

○東京美術學校　兼て岡倉覺三其他諸氏が計畫中なる東京美術學校は今度上野敎育博物舘を借受け專ら本邦固有の美術を敎授する由にて行々ハ女生徒をも募集するといふ又同校の生徒ハ廣く志願者より採用する筈なれども成べく各地方の製產組合より適當の者を撰拔し度しとて美術に關する製作の產地へ諭示して研究員を出さしむる都合なりと

○婦人慈善會　は來る十一月十七十八十九の三日間鹿鳴館に於て開かるゝ由なるが右に付出品物等の件にて來月十六日同舘に於て發起人、幹事役員等の總集會を開く筈なりと云ふ

○福岡英和女學校　目下福岡天神町へ建築中なる英和女學校は本月上旬開校式を執行する豫定なりと又た同校々主ハ飛鳥賢次郎氏校長は峯ミつ子敎師は西洋人三名日本人五六人なりと云ふ

○大日本婦人衞生會　同會にては去る一日午後一時より一橋外帝國大學講義室に於て第二總會を開き役員撰擧を執行せしに會長には加藤鈴子副會長にハ南部郁子幹事には濱尾作子村岡久野子細川静子荻野吟子大澤作子等の諸氏當撰し右了て櫻井郁次郎氏は婦人衞生の一班長井長義氏は臺所の衞生といふ演說あり本日來會の貴婦人ハ二百五十餘名なりしといふ

○横濱高等女學校の設立　横濱の豪商諸氏は小學科以上の課程を授くる一の高等女學校を設立せんと目下協議中の由

社告

○暑中休暇にて竹中醫學士通俗衞生學講義開筵無之爲當月は筆記もお休でムいます

彫刻の不都合で前第十四號の「ともしらが」の譜に誤謬が有りました故、こゝで正誤します。

○第一段「ト」は第二線、第二段「ナカハ」の「ハ」は第一線、仝「ハマベ」の「ベ」ハ第三線、仝「ヨムトモ」の「ト」ハ第四線、及び「モ」ハ第二間と第三線、第三段「ナダ」の「ダ」ハ第三線と第三間、及び「ナダチバ」之「チ」ハ第四線「アラシハ」之「ア」ハ第三線、および「ハ」も第三線、第四段「ナキサ」の「ナ」ハ第一線、「バカリ」の「リ」ハ第四線

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

私立女子文藝學舍生徒募集

○本舍學習ノ科目ハ和洋服裁縫編物挿花點茶和歌英學數學トス○學習ノ外修身衛生及家事經濟等ノ講筵ヲ開ク○各科目學習ノ爲メ專門ノ師ヲ聘シテソノ指授ヲ依賴ス○九月十一日ヨリ開校候ニ付入學ヲ欲スル姉妹ハ速ニ申込マルヘシ○規則書入用ノ方ハ郵劵二錢添送附アレ○當分ノ內束脩ヲ要セス

麴町區中六番町六番地白蓮會ニ於テ

私立女子文藝學舍

生徒募集廣告

今般本學暑中休業後ノ始業ニ際シ一層規摸ヲ擴張シ學士數名ヲ增聘シ益獨立女學ノ進渉ヲ計レリ依テ今般寄宿通學生百名ノ入學ヲ許ス有志者ハ來三十日迄ニ申込アレ

芝櫻田兼房町

私立東京女學

●性命之友

毎月一回發行　一冊正價八錢（全國無遞送料）

社說、中外論說、問答評論、小說、公達、公私衛生會錄事、雜報、傳記、廣告、

今日は衞生の要務を盡すべき時なり、最も衞生を重んぜへきの時なり、然るに世人は何か故に其本を忘れて末にのみ孜々するや、諸にも命有ての物種と、蓋し我身体を强健にしてこそ其欲そる所の事業を仕遂けらる可けれ、衞生の道を守らそして、心を無限の、境域に走らそ、恰も餓鬼の百重を負ふて千里にはまんとそるか如く、誰か其出來得へきを知らん、我輩茲に憂ふる所ありて表題の如き雜誌を發行して大に我國衞生の進步を圖らんとす、江湖之兄弟姉妹の衆幸に購讀の榮を賜はれ

（賣捌或ハ通信ヲ望ム者ハ本社へ申込アレ）

發行所　京都府上京區第廿九組御所八幡町第貳拾四番戶

厚生社

●頓智孃

毎月二回發行　本名頓智協會雜誌

孃ガ風姿ノ艶麗淡雅ナルト孃ガ性質ノ有爲活潑ナルハ世ノ既ニ知ル所今茲ニ贅セズ近刊目錄（毎號美畫六面以上挿入）●寓意畫頓智山ノ噴火○頓智協會評判之一斑　以上●古今内外頓智談每號廿五件以上●論說　痴中ニモ頓智アル乎笑ノ說●問答每回十題●傳記　頓智家大石眞虎之傳●小說　頓智橋番人日記●材料每號二十件以上●寓言鼻ノ高サ穴鹿馬●新聞雜誌記者才筆集　文海ノ舩頭半官報●頓智協會員原籍職業外名●近事雜報　花月樓ノ新案頓智珍聞及ビおもしろ誌ノ廢刊　會主宮武外骨今日新聞ヨリ頓狂博士ノ稱號ヲ授カル●廣告　頓智崇求　黑田清隆君言行錄

八月二十五日發行ノ第十八號ニ頓智道中雙六ノ美畫ヲ挿入セリ

○本誌代價一冊拾錢五冊前金四十五錢十冊前金八十錢廿冊前金一圓五十錢當市外ハ一冊ニ付郵稅一錢

發行所　東京府神田區駿河臺北甲賀町三番地

頓智協會

●教學論集

第五十七編　九月五日發行　價郵稅共九錢

目次○行誡上人言行記(其二)○達賓氏人類始祖論摘要(第一人類の下等動物より進化の諸証)飯田央○佛教及教育(戶城傳七郞)○教學苑林、三○雜錄○放生池碑銘並序(養鸕徹定)●和歌　哲言

●勝友會誌

比較宗教學の必要○カントの傳○希臘の宗教○雜報○僧侶の海外行員數○布哇國へ教師派遣の必要○海外宣教會○宗教博物舘○本願寺新組織集會○高島炭坑○弘法大師足迹○要件日誌○外數件○記事○六冊前金郵稅共五十錢、十二冊同上九十錢、

發行所　東京芝公園廿六號

無外書房

夏木立

中本一冊　百三十四頁　定價三十錢

女學雜誌評：此書は美妙齋主人山田武太郎氏が「夏木立といふ中にハ栴檀もありまた荊棘もあらうといふので一範の俘四玉屋の鏖花の茨茨の花柿山伏仇を恩武藏野の六篇を集め之を夏木立と總稱へられたる近來珍らしき好著作なり此頃の小說ふて妹と脊鏡浮雲捨小舟の類何れも一巻當千の價あるものなれども此の夏木立の如く著者の才力の滿編なく行渡りたるは比類なきものなり其の譯述の巧妙なる其の想像力の豊富なる其の養ふ所ろの深き僅々たる此の一小冊子ふよりて十分に承知せらる

東京本町三丁目　金港堂

婦人言論の自由

婦人矯風會書記佐々城豐女譯

一冊十錢　郵税四錢　（新版）

德富猪一郎君評曰く婦人の言論ハ人を屈服するふ非ずして人を勸誘するに在り而して其勸誘そるや或ハ涙となり或ハ笑ひとなる然れども其一泣一笑時に或ハ千言萬語滔々たる議論に優れると無きに非ざ吾人ハ佐々城姉が此譯の世に出でたるを喜び世の姉妹に此書を一讀せられんとを推薦す云々

嚴本善治君評曰く然れども余が此書ふ於て特に尤も歎賞して措く能はざる者ハ本書原著作の由來記に在る也記に曰く月明の夜妾良人と共に出でゝ逍遥す偶ま會堂ふ入て共に座に就く時牧師會后の集會に云々此時妾良人の面を窺ふふ良人勃然として立ち反論して之を不可とす妾實に晴天霹靂の思ひありき然とも直ちに携ふる所の速記用紙筆を取出して則ち良人の論を速記す記して成る所ろの者即ち此書なり云々

諸姉妹乞ふ一讀を賜へ。

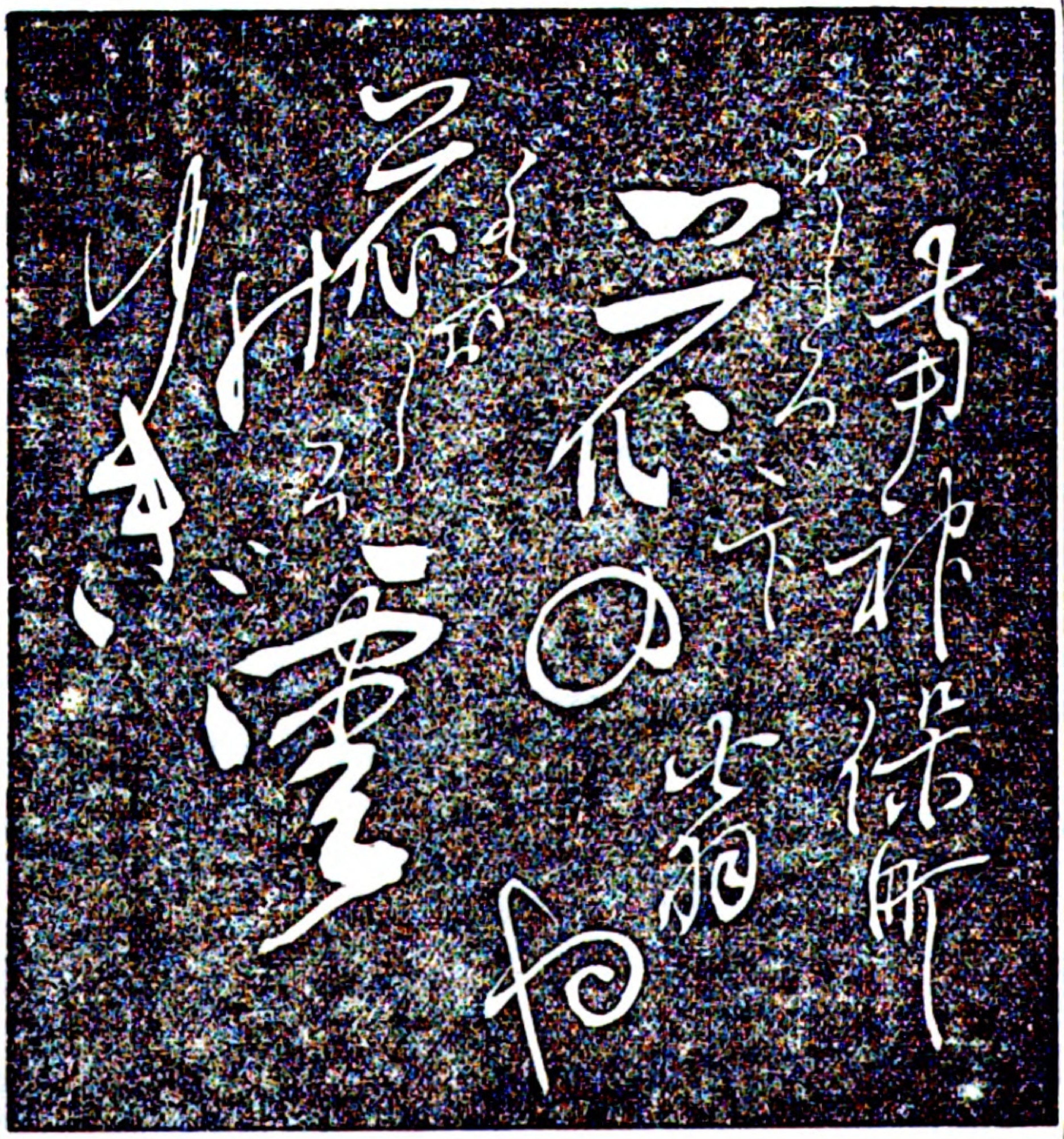
東京日吉町八番地　女學雜誌社

●貴女之友

第三十四號　九月五日發行

探幽筆唐子遊の石版密畫(略傳附)●憂きことのきはみ○婦人會の事業○大和錦(繪入)○「さて」といふ言葉○女學記者の答辨○歌○曇天の日が晴天の日よりも熱きことを○雨と樹木○歌○料理問答○醫者れ來るまで○人力車の害○歌○小兒の希望○惡に勝つに善を以てせよ○書探し○土佐日記講義○考物○學藝問題の解答●新報○愛和女學校○名古淸淸流女學校○秋田婦人英語會○加藤錦子孃○クレヴランド氏の夫人○二女史の實業教育○新刊書○一山百文の批評●廣告○數件●每五の日發行○一部金八錢○十二部前金九十錢○郵税一錢宛

東京日本橋區本町二丁目三番地　東京教育社



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

いらつめ第十三號目次

社説。女子を實驗の犧牲とする勿れ。
家政。ひきつけ療法。醫學士竹中成憲氏。百日咳療法。小兒育て方習慣の話。
小説。空行く川(第四回)
學藝。甘露を降らす虫(密畫入)。
文藝美術。歌數首＝孤芳女史＝東宮鐵麿＝美妙。新作唱歌＝美妙。音樂稽古の仕方＝上眞行氏。
流行。羅衣綴珍の帶＝開化牡丹の簪＝金足水晶玉の簪＝銀蒔繪の櫛＝すみれの香水＝香水瓶を下ける事＝臙錄の時計鎖＝玉子〜の時計鎖＝孔雀扇＝藤紫繻子蒔黄緞組屑籠。米國貴婦人間の日本風の流行。
化粧。齒達で髮毛を洗ふ弊惡＝髮毛を保存する法。
講義。用器畫稽古の新法(畫入)。
雜集。文學大家平生會話の巧拙。人工の片輪(密畫入)
批評。明治唱歌。敎の鶯。本鄉W 8生に。
叢話。姑と嫁。
餘興。前號謎の解○新作謎。
月報。日本演藝矯風會發會批評。
特別寄書。和洋兩服の利害可否を論し全國の淑女紳士ニ訴る醫學士竹中成憲氏。

いらつめ第十四號目次

家政。小兒育て方神童才女の談。
小説。正本はむれット。
雜集。人工の片輪。(支那婦人の足。並西洋人の足。(密畫入))
流行。鐵柄の蝙蝠。米國貴婦人間の日本風の流行。
化粧。毛を延ばす奇法。牛乳で顏を洗ふ可否。
講義。用器畫稽古の仕法。
文藝美術。本歌取樣諸説。花と花瓶との關係。歌數首＝美妙。唱歌＝美妙。新体詩＝重陽禪師。
論説。日本の婦人ニ望む。
批評。新編紫史細評。
餘興。新作謎……(懸賞)。
月報。
唱歌。ともえらが(樂譜付)。

いらつめ賣捌所

東京日本橋區通油町	良明堂
同神田區淡路町壹丁目	嚴々堂
同同佐柄木町	東海堂
同同雉子町	團々社支店
同同今川橋傍	吉岡藏商店
同同錦町壹丁目	武屋
同同南神保町	江川
同日本橋區蠣殼町壹丁目	信文堂
同本鄉區元富士町	盛春堂
同同春木町貳丁目	解明堂
大坂心齋橋備後町	岡島支店
堺能野町	高山慶雲堂

○いらつめ代價一冊金八錢　六冊(半年分)金四十五錢　十二冊(壹ケ年分)金八十錢府外每號郵稅壹錢宛申受○每月十五日發兌

雜誌代ハ前金ニアラサレハ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラハ拂渡郵便御トアル所ニ神田郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ神田區駿河臺南甲賀町八番地成美社ト御記入ノ事

○廣告料一行(五號文字二十七字詰)金八錢○十一行以上金七錢○二十一行以上金六錢　但シ前金ノヿ

發行兼編輯人　山田武太郎

印刷人　佐野忠吉

發行所　東京神田區駿河臺南甲賀町八番地　成美社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY